

排水ヘッダー工法
『ビニヘッダー』取扱説明書

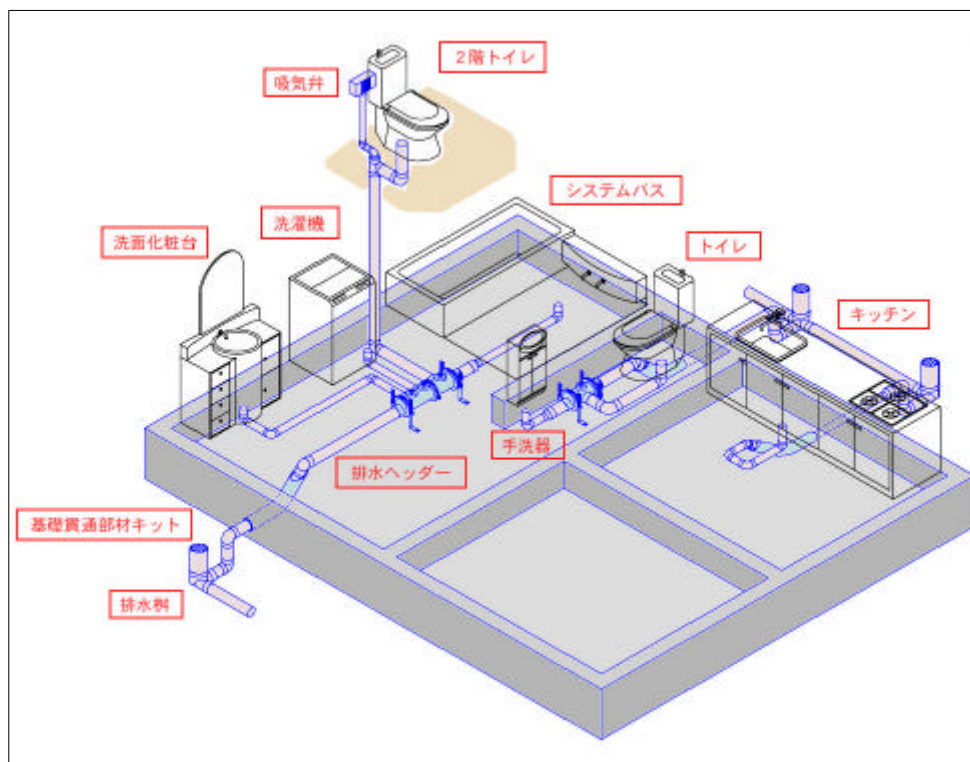
排水ヘッダー工法『ビニヘッダー』取扱説明書 目次

1. 排水ヘッダー工法の概要	
(1) 配管工法の解説	001
(2) 排水ヘッダー工法の特徴	001
2. 排水ヘッダーの配管方式	002
3. 配管計画	
(1) 間仕切基礎貫通	006
(2) ユニットバス排水管の高さ制限	007
4. 排水ヘッダー組合せ例	008
5. 排水ヘッダー収まり例	013
6. 排水ヘッダー部材	015
7. 排水ヘッダー施工手順	016
8. 排水ヘッダー維持管理手順	019
9. 検査	021
10. 排水ヘッダー取扱い上の注意	021
11. 給排水設備設計図例	022
・「雨水合流方式」	
・「合併浄化槽方式」	
・「合流A（汚雑合流）」	
・「合流B（キッチン単独）」	
・「分流A（トイレ単独）」	
・「分流B（雑排分離桧）」	
・「分流C（雑排目皿付桧）」	
・「分流D（キッチン分離桧）」	
12. 排水ヘッダー水理実験例	036
13. 排水ヘッダー施工例	036

1. 排水ヘッダー工法の概要

①配管工法の解説

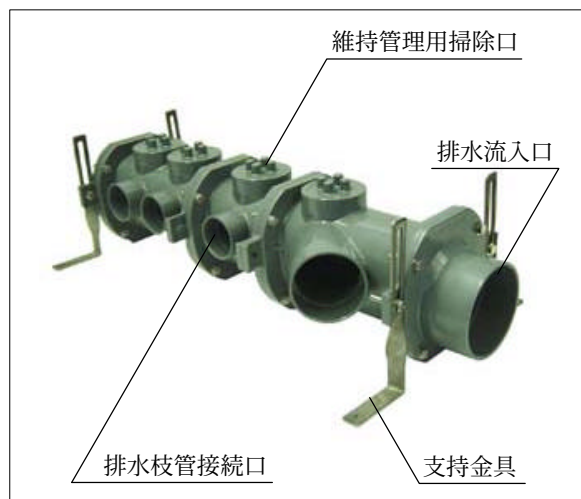
洗面所などの1階床下に設置した排水ヘッダーに対して排水管を接続させる工法で、外周基礎の配管貫通数の削減や屋外汚雑埋設配管・排水柵の減少が図られ、排水設備工事の省力化が可能になる。



②排水ヘッダー工法の特徴

- ①複数同時排水時でもスムーズに排水できる本体形状。
- ②排水枝管への逆流を減少する接続口高さ。
- ③維持管理用の掃除口を設置。
- ④排水ヘッダー本体は付属支持金具でレベル調整可能。
- ⑤排水器具の追加対応が可能。
- ⑥組立は専用工場で行い、気密試験による品質管理を徹底。

前澤化成工業 株)製品



2 排水ヘッダーの配管方式

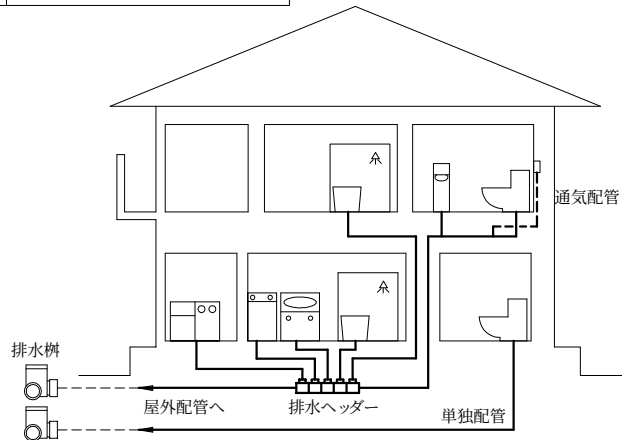
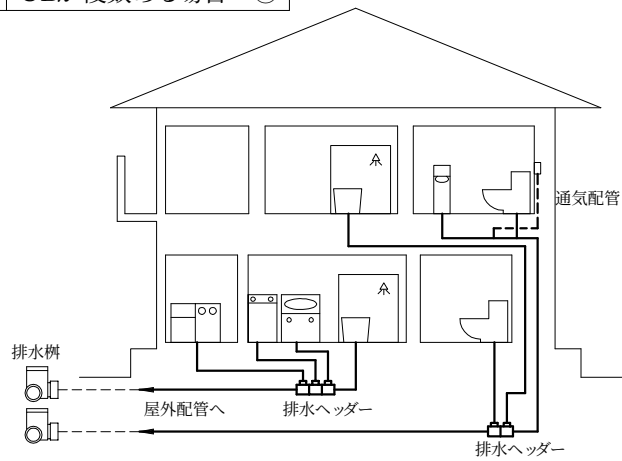
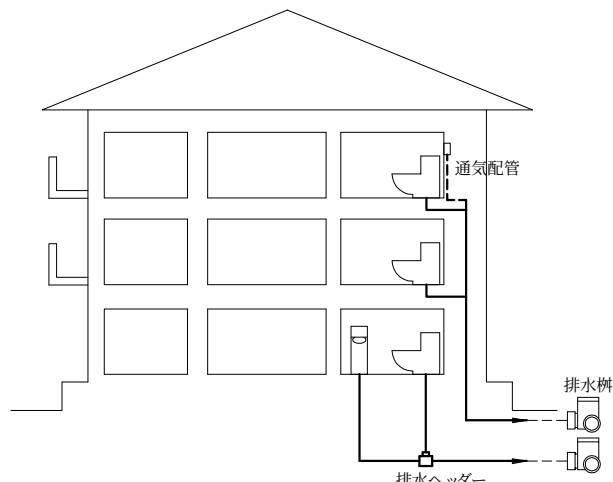
排水ヘッダーの設置場所は1階床下とし、2・3階床下の設置は不可とする。

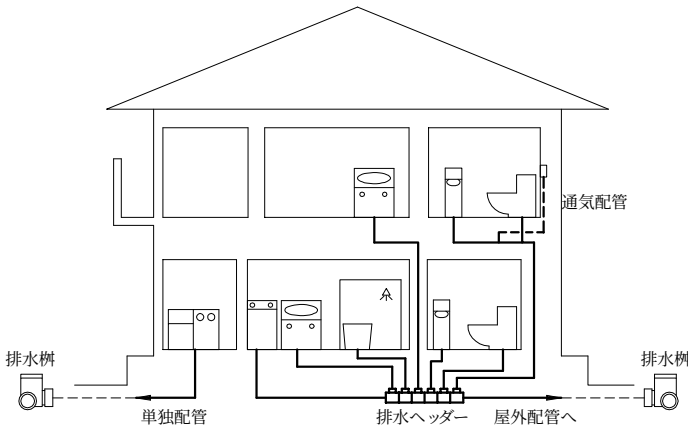
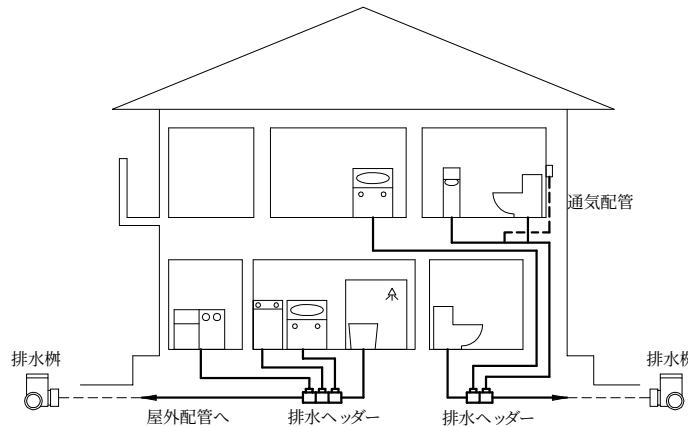
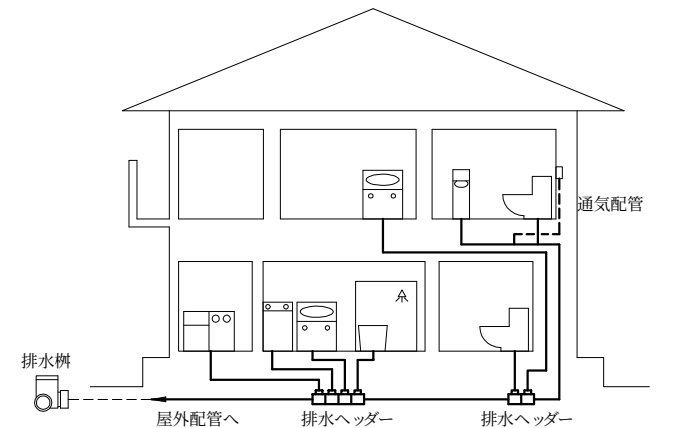
器具設置位置・器具数などにより異なるが、水廻りが集中する洗面所床下やトイレ床下に計画すること。1階に水廻りが無い場合は立下り管付近に計画する。また床下点検口は排水ヘッダーの近くに設けるのが望ましいが、離れて設ける場合は床下点検ルートを必ず確保すること。

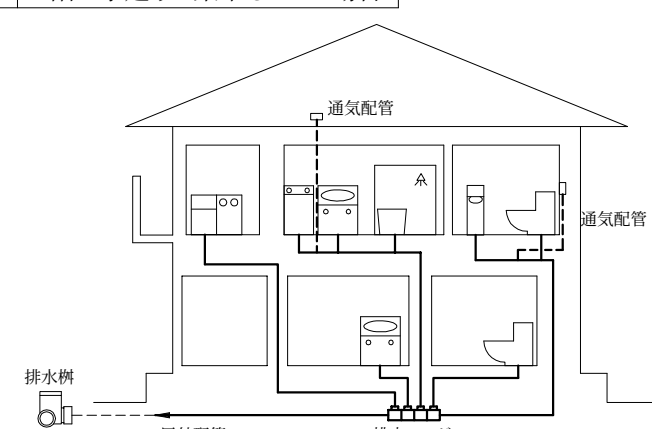
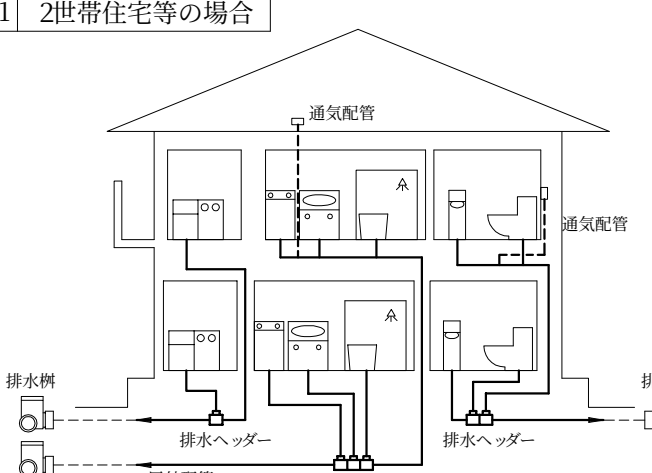
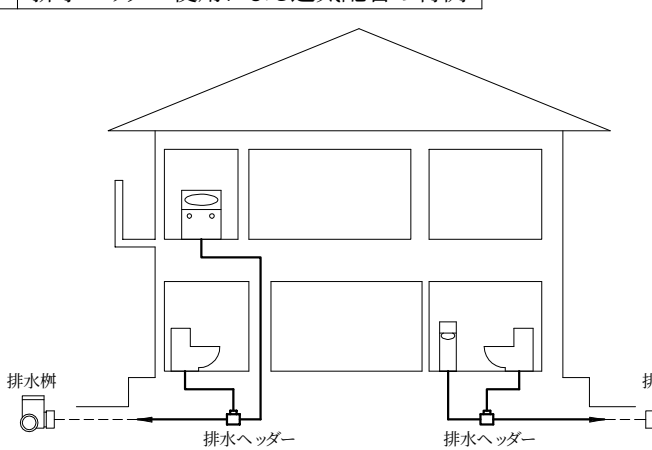
※行政の指導がある場合は、それに従うこと。

※以下に示す概念図は2階建となっているが、3階建も同様のルールにて計画すること。

概 念 図							解 説													
1 基本設計プラン							＜排水ヘッダーの基本事項＞ ①排水ヘッダーへの接続器具数は、下記の7器具を上限とする。 雑排水 5器具＋汚水（大便器）2器具 ※雑排水 5器具にトイレ内手洗器は含まない。 ※UBは1系統のみとする。 ②排水ヘッダーシステム工法に限り、2階大便器と2階洗面化粧台の排水配管合流を可とする。 ③合流の有無に係わらず、2階大便器配管には通気配管を設けること。													
<table><tr><td>1F</td><td>大便器</td><td>手洗器</td><td>洗面化粧台</td><td>洗濯機</td><td>UB</td><td>キッチン</td></tr><tr><td>2F</td><td>大便器</td><td></td><td>洗面化粧台</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>								1F	大便器	手洗器	洗面化粧台	洗濯機	UB	キッチン	2F	大便器		洗面化粧台		
1F	大便器	手洗器	洗面化粧台	洗濯機	UB	キッチン														
2F	大便器		洗面化粧台																	
2 8器具以上の場合－①							＜接続器具数の制限＞ 8器具以上の器具が設置されている場合には、下記の①又は②の通り計画すること。 ①大便器の排水配管を別系統とする。 ※1階、2階どちらの配管を区分しても可。 ②排水ヘッダーを複数設置し、排水系統を分割する。													
<table><tr><td>1F</td><td>大便器</td><td></td><td>洗面化粧台</td><td>洗濯機</td><td>UB</td><td>キッチン</td></tr><tr><td>2F</td><td>大便器</td><td></td><td>洗面化粧台</td><td>洗濯機</td><td></td><td></td></tr></table>								1F	大便器		洗面化粧台	洗濯機	UB	キッチン	2F	大便器		洗面化粧台	洗濯機	
1F	大便器		洗面化粧台	洗濯機	UB	キッチン														
2F	大便器		洗面化粧台	洗濯機																
3 8器具以上の場合－②							②排水ヘッダーを複数設置し、排水系統を分割する。													
<table><tr><td>1F</td><td>大便器</td><td></td><td>洗面化粧台</td><td>洗濯機</td><td>UB</td><td>キッチン</td></tr><tr><td>2F</td><td>大便器</td><td></td><td>洗面化粧台</td><td>洗濯機</td><td></td><td></td></tr></table>								1F	大便器		洗面化粧台	洗濯機	UB	キッチン	2F	大便器		洗面化粧台	洗濯機	
1F	大便器		洗面化粧台	洗濯機	UB	キッチン														
2F	大便器		洗面化粧台	洗濯機																

概 念 図						解 説	
4 UBが複数ある場合－①						<UB接続数の制限> ユニットバスが複数設置されている場合には、接続器具数が7器具以内であっても下記の①又は②の通り計画すること。 ①大便器の排水配管を別系統とする。 ※ 1階、2階どちらの配管を区分しても可。 ②排水ヘッダーを複数設置し、排水系統を分割する。	
							
5 UBが複数ある場合－②							
							
1F	大便器		洗面化粧台	洗濯機	UB	キッチン	
2F	大便器	手洗器			UB		
6 上階に複数的大便器がある場合						<配管計画上の制限> 上階に2以上的大便器があり、上階設置の大便器を合流させた場合は、1階設置の排水ヘッダーには接続させない。 ※同時排水時にトラップの跳ね出し現象が発生するため。	
							
1F	大便器	手洗器					
2F	大便器						
3F	大便器						

概 念 図							解 説
7	1器具だけ離れている場合						＜配管計画上の注意＞ 配管計画上、排水ヘッダーへの接続が困難な場合（配管勾配が確保できない場合等）には別系統にて配管計画を行なう。P.006参照）
							
1F	大便器	手洗器	洗面化粧台	洗濯機	UB	キッチン	
2F	大便器	手洗器	洗面化粧台				
8	器具設置位置が分散している場合－①						＜配管計画上の注意＞ 水廻りが分散し、排水ヘッダーに集中配管することが困難な場合には、排水ヘッダーを分割して設置する。
							
1F	大便器	手洗器	洗面化粧台	洗濯機	UB	キッチン	
2F	大便器	手洗器	洗面化粧台				
9	器具設置位置が分散している場合－②						＜配管計画上の注意＞ 分割設置した排水ヘッダーを連結することは可とする。 ※接続可能器具は7器具以内とし、それを超える場合には主配管を別系統で計画し、排水樹へ接続すること。 横引配管延長の制限に注意し、配管勾配を確保すること。P.006参照）
							
1F	大便器	手洗器	洗面化粧台	洗濯機	UB	キッチン	
2F	大便器	手洗器	洗面化粧台				

概 念 図							解 説						
10	2階に水廻りが集中している場合						＜配管計画上の注意＞ 2階に水廻りが集中している場合、合流して立上げて排水ヘッダーに接続する。						
													
1F	大便器		洗面化粧台										
2F	大便器	手洗器	洗面化粧台	洗濯機	UB	キッチン							
11	2世帯住宅等の場合						＜配管計画上の注意＞ 2世帯住宅等で器具数が多い場合、排水ヘッダーを複数設置し、排水系統を分割する。						
													
1F	大便器	手洗器	洗面化粧台	洗濯機	UB	キッチン							
2F	大便器	手洗器	洗面化粧台	洗濯機	UB	キッチン							
12	排水ヘッダー使用による通気配管の特例						＜配管計画上の制限＞ 排水ヘッダーを使用した場合、1階大便器と手洗器、あるいは1階大便器と2階洗面化粧台を合流させても通気配管は不要。						
													
1F	大便器	手洗器											
2F			洗面化粧台										

3. 配管計画

(1) 間仕切基礎貫通

排水ヘッダー工法は、1階床下の排水配管が従来工法と比べ増加することから、1階床下の点検・管理が容易に行える配管経路を計画すること。

間仕切基礎貫通位置に設置するスリーブボイド管は、基礎上端より110mmの位置に設置し、サイズはφ125とすることから、間仕切基礎貫通可能距離は下記の寸法以下とする。

間仕切基礎貫通可能距離 (A+B又はA+C) (mm)

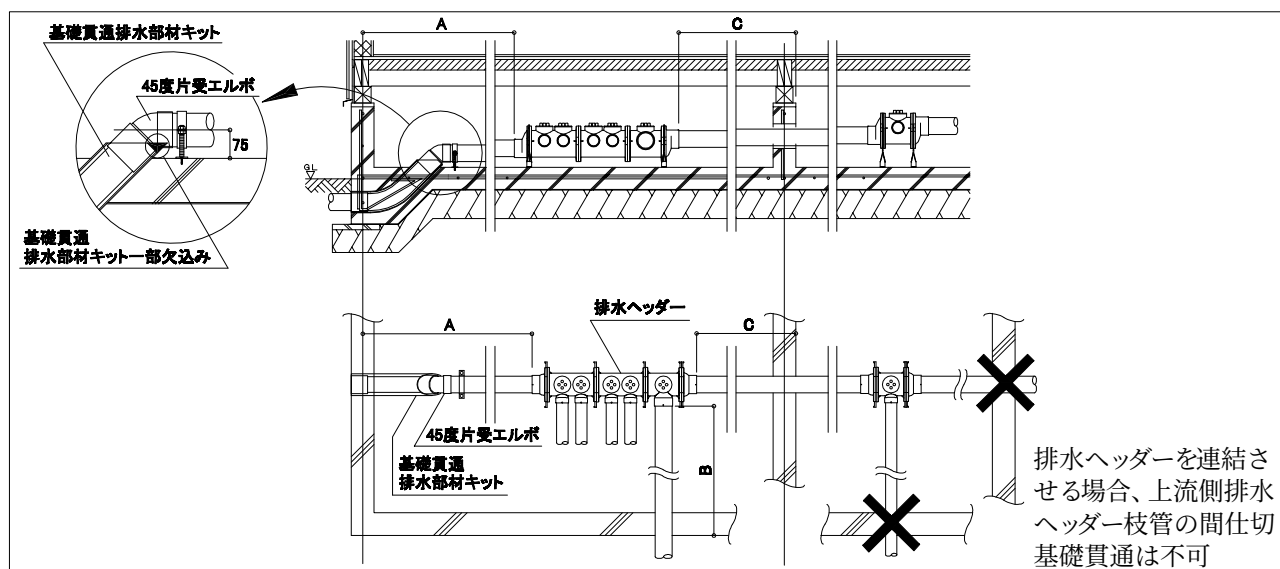
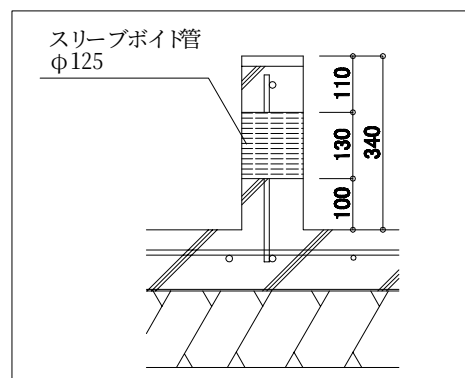
A 以内)	B		C	
	φ50	φ75	φ50	φ75
1000	6500	5000	6000	4500
2000	5500	4000	5000	3500
3000	4500	3000	4000	2500

※配管勾配 1/100にて算定。

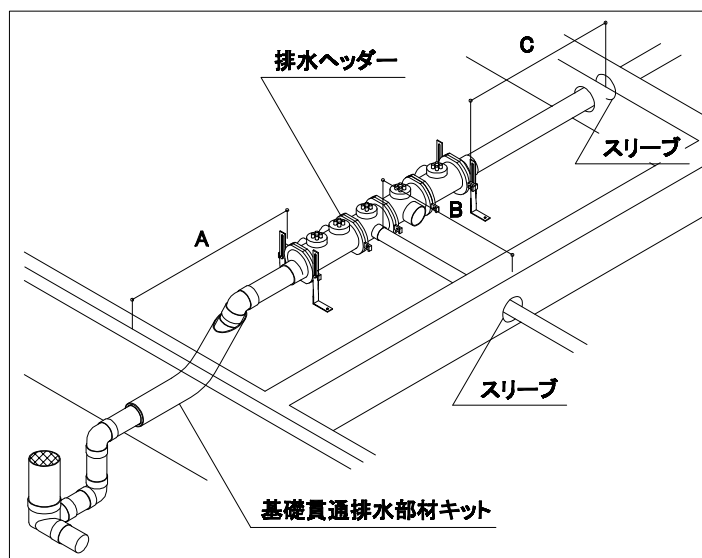
A 外周基礎芯より排水ヘッダーの主管接続位置までの距離

B 排水ヘッダー枝管方向の間仕切基礎貫通可能寸法

C 排水ヘッダー上流方向の間仕切基礎貫通可能寸法



※間仕切基礎貫通箇所の有無に係らず、基礎貫通部材キットから最も離れた排水器具までの最大横引延長は、メンテナンス性を考慮し12mとする。



例：A寸法が1000mm (1m)の時

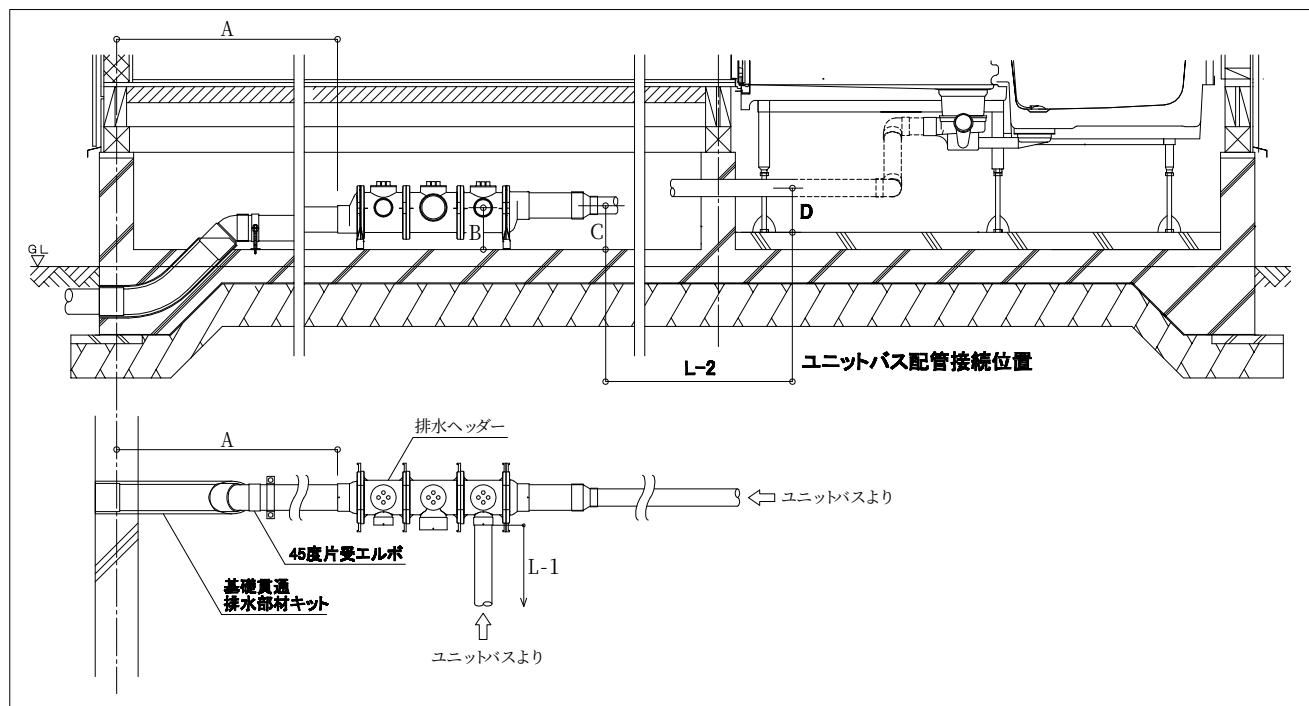
B寸法は6500mm (φ50の場合)以内

C寸法は4500mm (φ75の場合)以内

となる。

② ユニットバス排水管の高さ制限

ユニットバスへの配管は、排水配管の横引延長が長くなると配管勾配の関係上、接続が困難になる。よってユニットバス毎に配管最大高さを確認すること。



※メーカーによって配管の高さが異なるので、事前に確認すること。

ユニットバス配管接続可能距離 L-1
(配管勾配1/100にて算定)

A (以内)	B	D		
		INAX いんす 1616 220mm	INAX いんす 1620 210mm	TOTO トロピア 1717 330mm
1000	130	9000	8000	※
2000	140	8000	7000	※
3000	150	7000	6000	※

ユニットバス配管接続可能距離 L-2
(配管勾配1/100にて算定)

A (以内)	C	D		
		INAX いんす 1616 220mm	INAX いんす 1620 210mm	TOTO トロピア 1717 330mm
1000	140	8000	7000	※
2000	150	7000	6000	※
3000	160	6000	5000	※

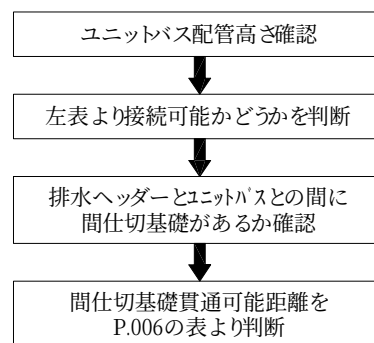
A: 外周基礎芯から排水ヘッダー主管接続位置までの距離

B: 排水ヘッダー枝管接続高さ

C: 排水ヘッダー上流側接続口高さ

D: ユニットバス配管接続高さ

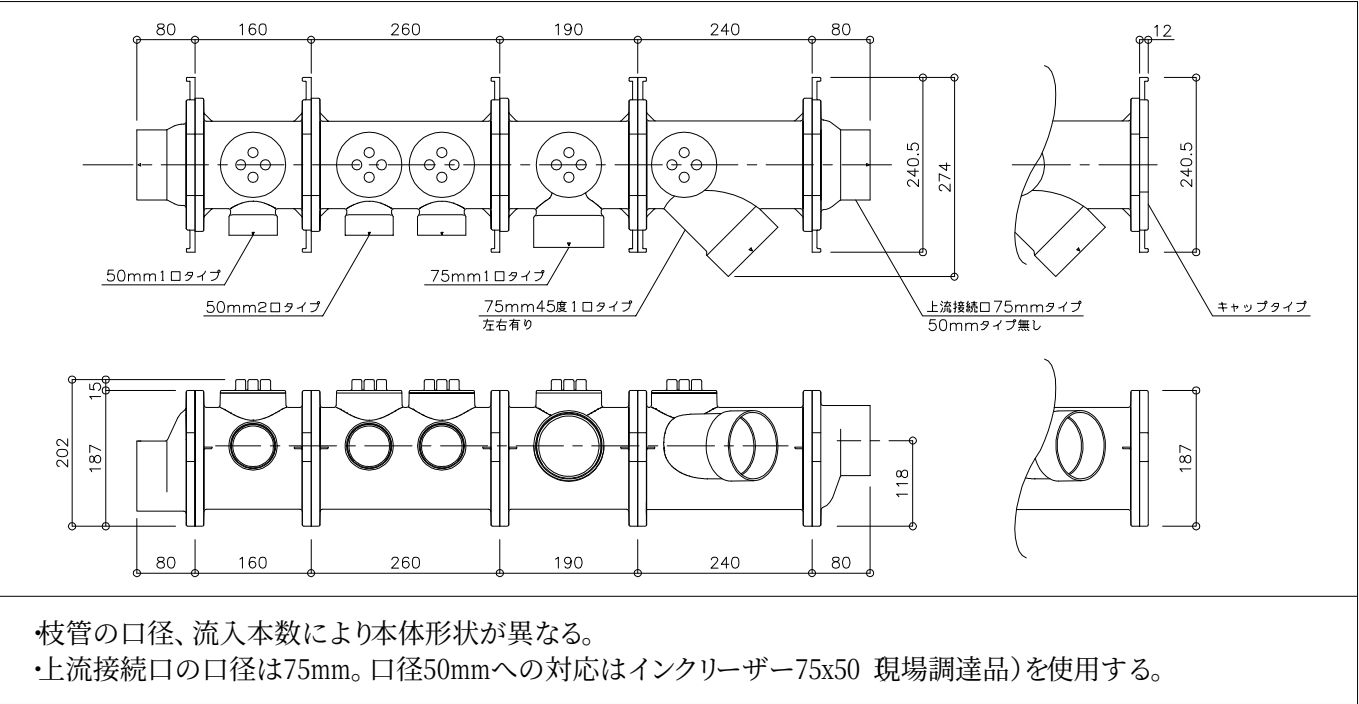
※配管延長は12m以内とする。(P.006参照)



4. 排水ヘッダー組合せ例

排水ヘッダーは接続器具数により、ヘッダー本体を組合せて使用する。
以下に、排水ヘッダーの寸法及びよく使われる組合せパターン例を示す。

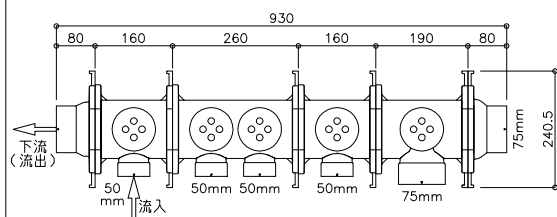
＜前澤化成製品 製品図＞



- ・枝管の口径、流入本数により本体形状が異なる。
- ・上流接続口の口径は75mm。口径50mmへの対応はインクリーザー75x50（現場調達品）を使用する。

＜前澤化成製品 組合せパターン及び寸法図＞

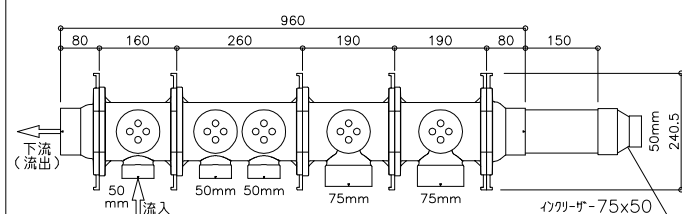
洗面所床下設置		雑排水器具接続数	50mm	5口
		汚水器具接続数	75mm	2口
		ヘッダー上流側はキャップ止め		
		雑排水器具接続数	50mm	5口
		汚水器具接続数	75mm	2口
		φ 75mm配管をヘッダー上流側に接続		
		雑排水器具接続数	50mm	5口
		汚水器具接続数	75mm	2口
		φ 50mm配管をヘッダー上流側に接続 インクリーザー75x50を使用する		
		雑排水器具接続数	50mm	4口
		汚水器具接続数	75mm	2口
		ヘッダー上流側はキャップ止め		



雑排水器具接続数	50mm	4口
----------	------	----

汚水器具接続数	75mm	2口
---------	------	----

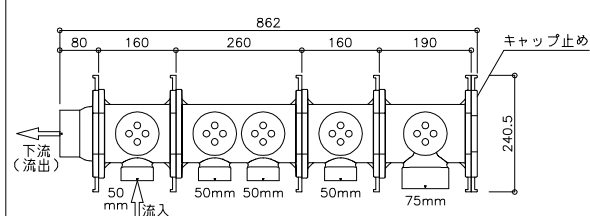
φ 75mm配管をヘッダー上流側に接続



雑排水器具接続数	50mm	4口
----------	------	----

汚水器具接続数	75mm	2口
---------	------	----

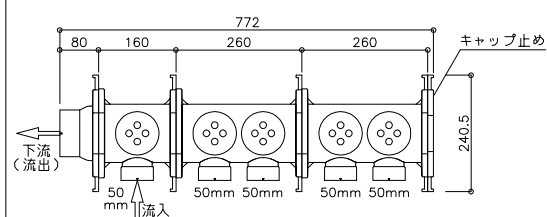
φ 50mm配管をヘッダー上流側に接続
インクリーザー75x50を使用する



雑排水器具接続数	50mm	4口
----------	------	----

汚水器具接続数	75mm	1口
---------	------	----

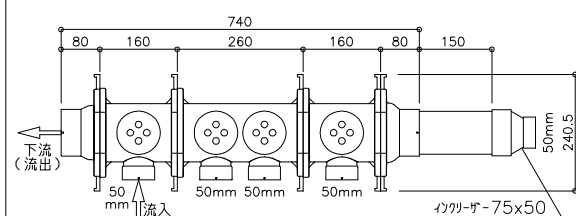
ヘッダー上流側はキャップ止め



雑排水器具接続数	50mm	5口
----------	------	----

汚水器具接続数	75mm	0口
---------	------	----

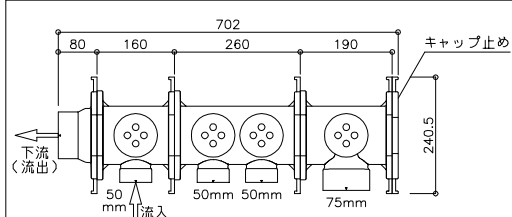
ヘッダー上流側はキャップ止め



雑排水器具接続数	50mm	5口
----------	------	----

汚水器具接続数	75mm	0口
---------	------	----

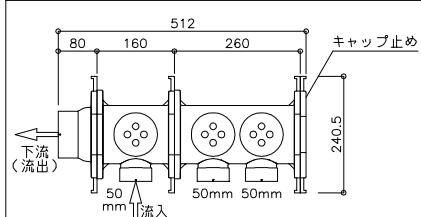
φ 50mm配管をヘッダー上流側に接続
インクリーザー75x50を使用する



雑排水器具接続数	50mm	3口
----------	------	----

汚水器具接続数	75mm	1口
---------	------	----

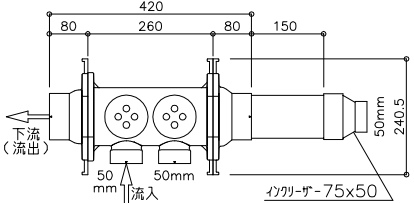
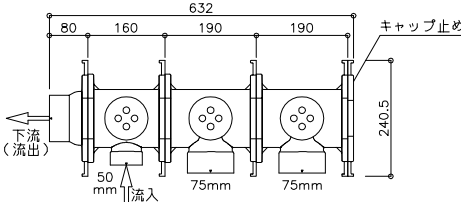
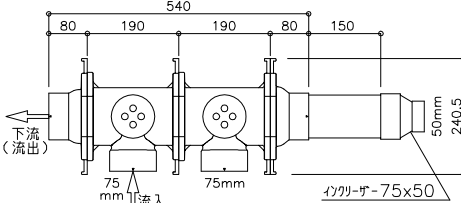
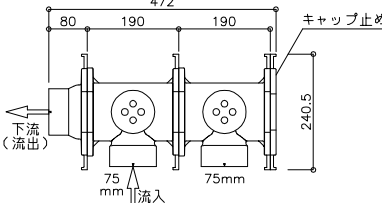
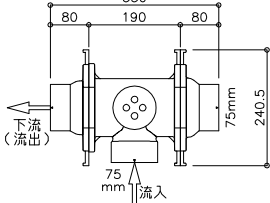
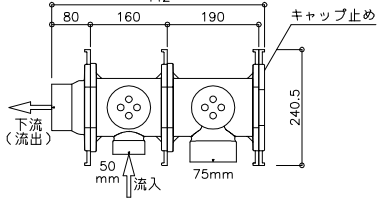
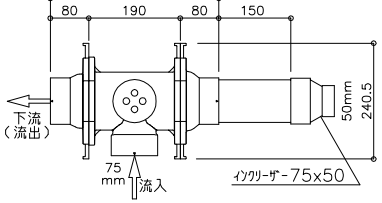
ヘッダー上流側はキャップ止め



雑排水器具接続数	50mm	3口
----------	------	----

汚水器具接続数	75mm	0口
---------	------	----

ヘッダー上流側はキャップ止め

洗面所床下設置		雑排水器具接続数	50mm	3口
		汚水器具接続数	75mm	0口
		φ 50mm配管をヘッダー上流側に接続 インクリーザー75x50を使用する		
トイレ床下設置		雑排水器具接続数	50mm	1口
		汚水器具接続数	75mm	2口
		ヘッダー上流側はキャップ止め 2階洗面等と2階大便器は単独配管		
		雑排水器具接続数	50mm	1口
		汚水器具接続数	75mm	2口
		φ 50mm配管をヘッダー上流側に接続 インクリーザー75x50を使用する 2階洗面等と2階大便器は単独配管		
		雑排水器具接続数	50mm	0口
		汚水器具接続数	75mm	2口
		ヘッダー上流側はキャップ止め 2階洗面等と2階大便器は合流配管		
		雑排水器具接続数	50mm	0口
		汚水器具接続数	75mm	2口
		φ 75mm配管をヘッダー上流側に接続 2階洗面等と2階大便器は合流配管		
		雑排水器具接続数	50mm	1口
		汚水器具接続数	75mm	1口
		ヘッダー上流側はキャップ止め 2階洗面等は単独配管		
		雑排水器具接続数	50mm	1口
		汚水器具接続数	75mm	1口
		φ 50mm配管をヘッダー上流側に接続 インクリーザー75x50を使用する 2階洗面等は単独配管		

＜前澤化成製品（45度Y型を使用する場合）の組合せパターン及び寸法図＞

可

不可

45度Y型の排水ヘッダーを使用する場合、上流側の配管経路と交差することが考えられるので、最上流部分に45度Y型を設置するか、上流側の隣接する排水ヘッダーの流入口が逆方向の場合に計画すること。

洗面所床下設置

雑排水器具接続数 50mm 5口

汚水器具接続数 75mm 2口

ヘッダー上流側はキャップ止め

雑排水器具接続数 50mm 5口

汚水器具接続数 75mm 2口

φ 75mm配管をヘッダー上流側に接続

雑排水器具接続数 50mm 5口

汚水器具接続数 75mm 2口

φ 50mm配管をヘッダー上流側に接続
インクリーザー75x50を使用する

雑排水器具接続数 50mm 4口

汚水器具接続数 75mm 2口

ヘッダー上流側はキャップ止め

雑排水器具接続数 50mm 4口

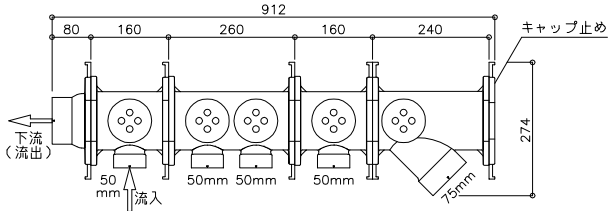
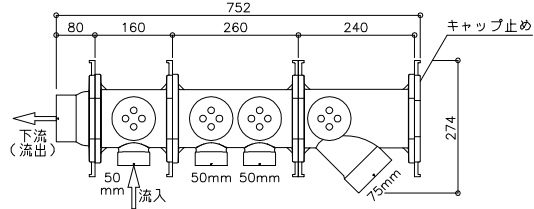
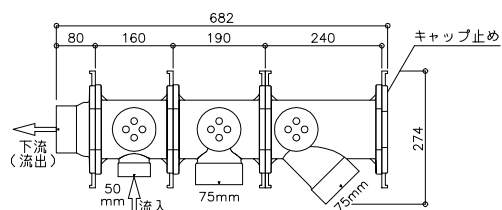
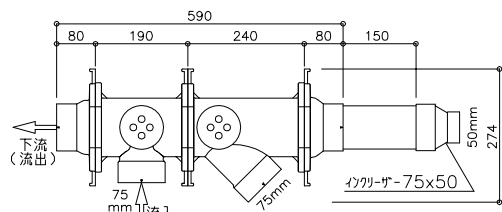
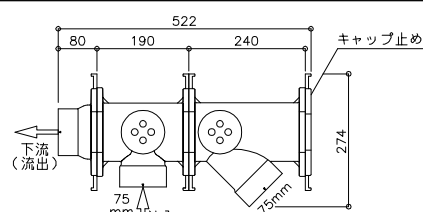
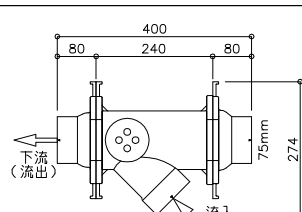
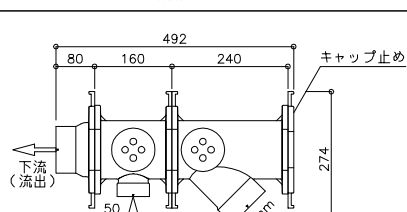
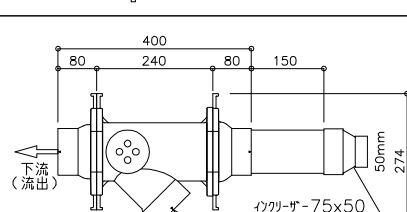
汚水器具接続数 75mm 2口

φ 75mm配管をヘッダー上流側に接続

雑排水器具接続数 50mm 4口

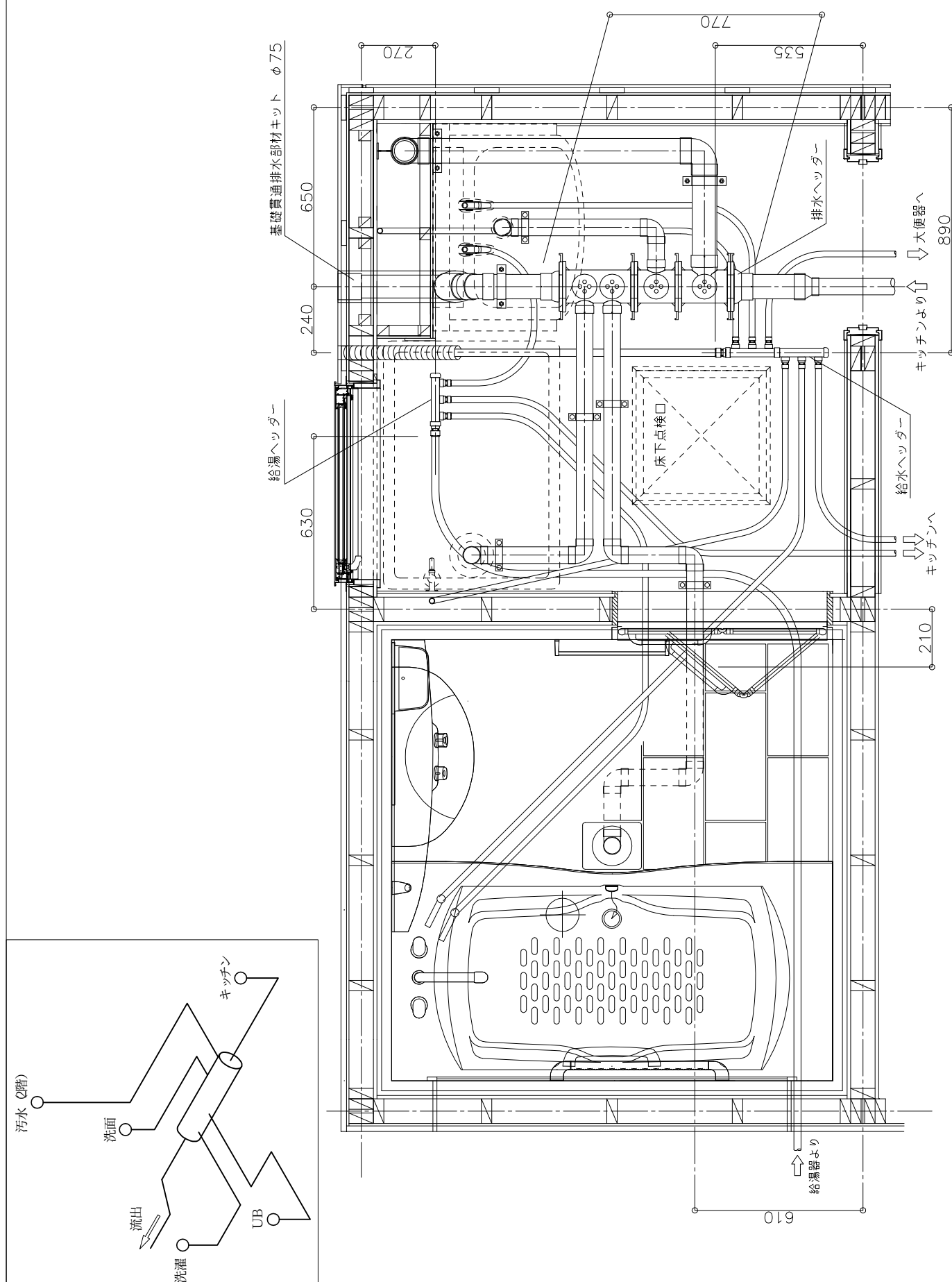
汚水器具接続数 75mm 2口

φ 50mm配管をヘッダー上流側に接続
インクリーザー75x50を使用する

洗面所床下設置		雑排水器具接続数	50mm	4口
		汚水器具接続数	75mm	1口
		ヘッダー上流側はキャップ止め		
トイレ床下設置		雑排水器具接続数	50mm	3口
		汚水器具接続数	75mm	1口
		ヘッダー上流側はキャップ止め		
		雑排水器具接続数	50mm	1口
		汚水器具接続数	75mm	2口
		ヘッダー上流側はキャップ止め 2階洗面等と2階大便器は単独配管		
		雑排水器具接続数	50mm	1口
		汚水器具接続数	75mm	2口
		φ 50mm配管をヘッダー上流側に接続 インクリーザー75x50を使用する 2階洗面等と2階大便器は単独配管		
		雑排水器具接続数	50mm	0口
		汚水器具接続数	75mm	2口
		ヘッダー上流側はキャップ止め 2階洗面等と2階大便器は合流配管		
		雑排水器具接続数	50mm	0口
		汚水器具接続数	75mm	2口
		φ 75mm配管をヘッダー上流側に接続 2階洗面等と2階大便器は合流配管		
		雑排水器具接続数	50mm	1口
		汚水器具接続数	75mm	1口
		ヘッダー上流側はキャップ止め 2階洗面等は単独配管		
		雑排水器具接続数	50mm	1口
		汚水器具接続数	75mm	1口
		φ 50mm配管をヘッダー上流側に接続 2階洗面等は単独配管		

5. 排水ヘッダー標準納まり例

＜1Fトイレを別系統とする場合＞





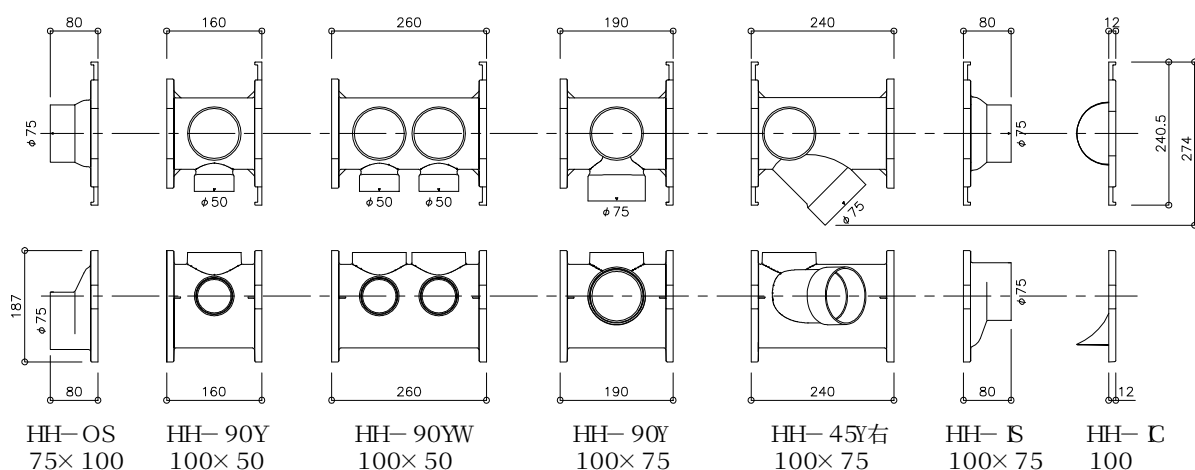
6. 排水ヘッダー部材

排水ヘッダー（工場組み立て品）

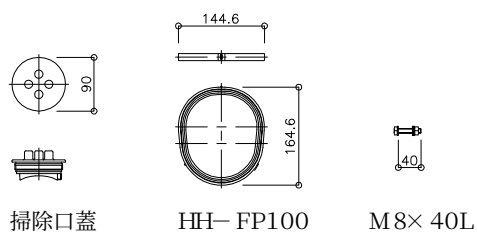
品 名 ・ 規 格		用 途
	本体部品	排水管の集中分岐継手 材質 ヘッダー本体 :PVC 塩化ビニル樹脂)製 支持金具 :SPHC-P 鋼製有色クロメート製
	・HH-OS 75×100	
	・HH-90Y100×50	
	・HH-90YW 100×50	
	・HH-90Y 100×75	
	・HH-45Y右 100×75	
	・HH-45Y左 100×75	
	・HH-S 100×75	
	・HH-C 100	
	本体付属部品	
	掃除口蓋	
	・HH-FP100	
	・M8×40L	
	支持金具用部品	
	・HH-SK-N ねじりタイプ	
	・HH-SK-L ㄷ字型タイプ	
	・M8×35L	
※前澤化成工業（株）製品		

形 状 ・ 寸 法

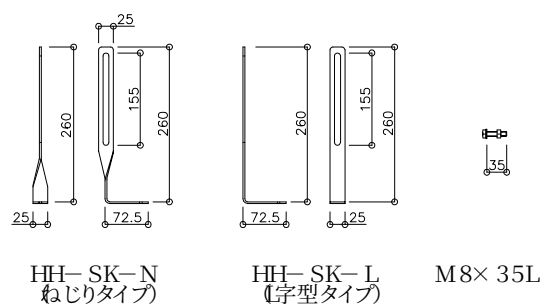
本体部品



本体付属部品

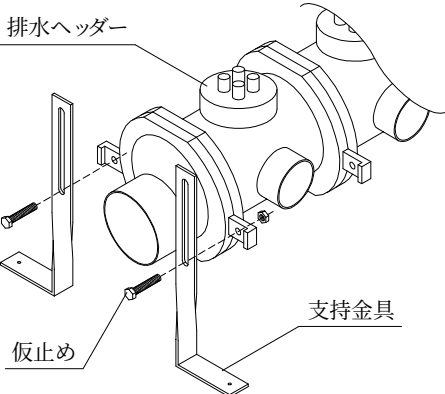
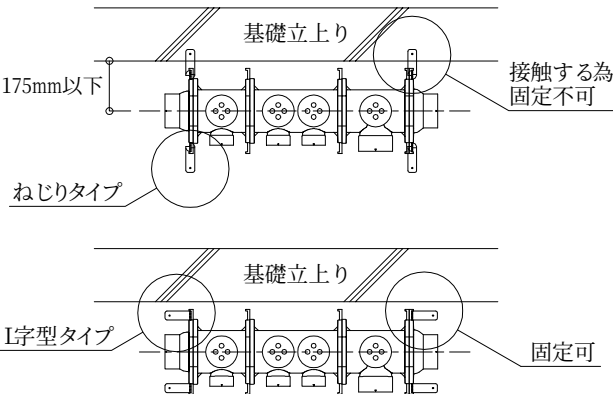
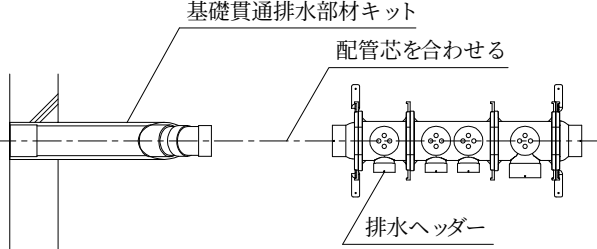
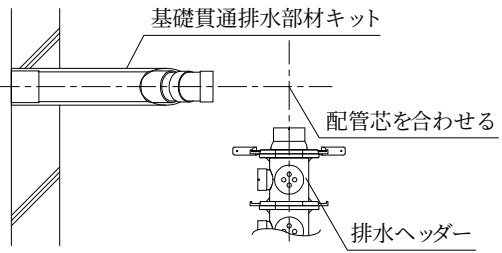
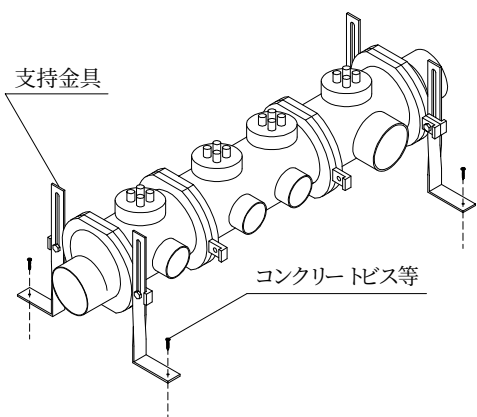


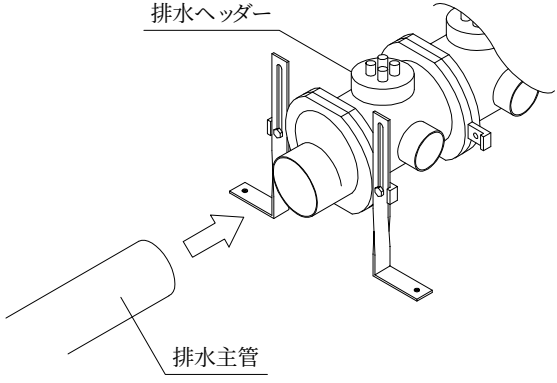
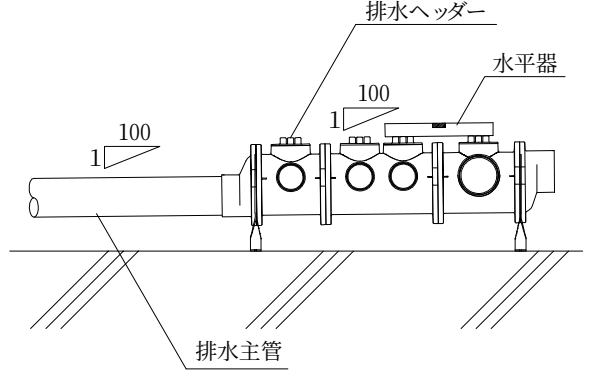
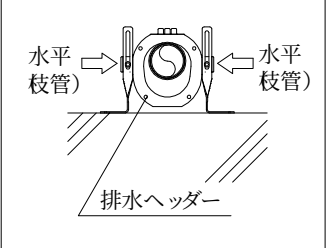
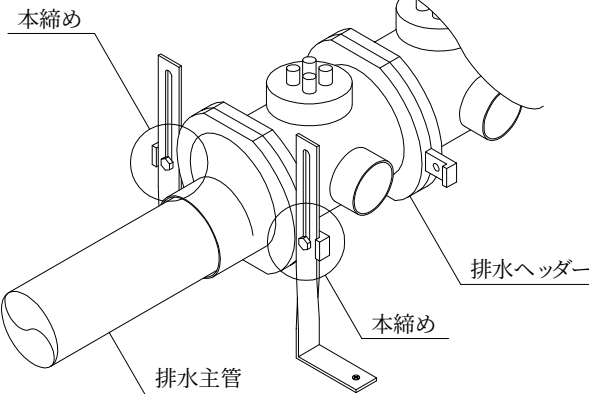
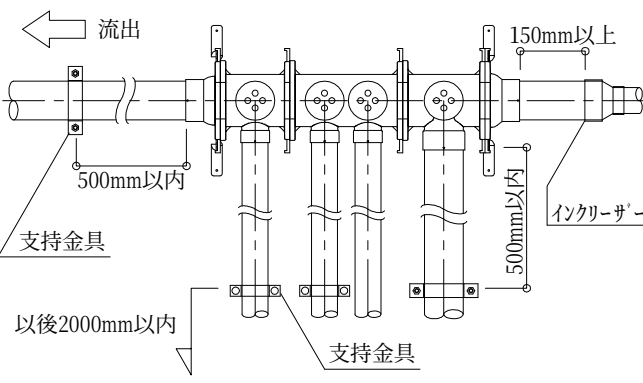
支持金具用部品

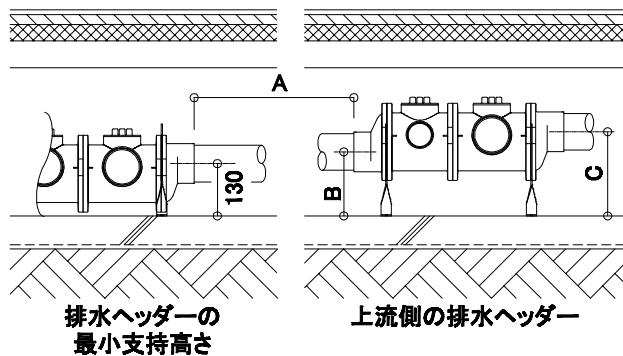


7. 排水ヘッダー施工手順

<前澤化成工業 株)製品>

	(1) 支持金具の仮止め 排水ヘッダーに同梱されている支持金具を、ヘッダー本体に仮止めする。
	※支持金具の設定 支持金具は「ねじりタイプ」を標準とする。 排水ヘッダー芯と基礎面との離隔が175mm以下の場合、「I字型タイプ」を使用する。
	(2) ヘッダー設置位置の墨出し 図面・及び基礎貫通排水部材キット設置位置より排水ヘッダーの設置位置を確認する。
	
	(3) 支持金具の土間コンクリート固定 コンクリートビス等を使用して、支持金具を土間コンクリートに取付ける。

 排水ヘッダー 排水主管	④ヘッダーと排水主管の接続 排水ヘッダーに排水主管を接続する。
 排水ヘッダー 水平器 100 1 排水主管	⑤排水ヘッダーと支持金具の本締め 排水ヘッダー及び排水主管の勾配が1/100になるように、仮止めしておいた支持金具と排水ヘッダーを調整し本締めする。 ※ヘッダー枝管方向は水平を保つように注意すること 
 本締め 排水ヘッダー 排水主管 本締め	排水ヘッダーは土間コンクリートに近接させ、できるだけ低い位置に設置すること。
 流出 500mm以内 支持金具 以後2000mm以内 支持金具 150mm以上 インクリーザー	⑥配管支持固定 排水主管及び排水枝管の支持固定は、排水ヘッダーから500mm以内とし、以後は2000mm以内で配管を支持固定すること。 上流側流入口にインクリーザー75x50を接続する場合は、排水ヘッダーから150mm以上の離隔を確保すること。 (器具の増設に対応するため)



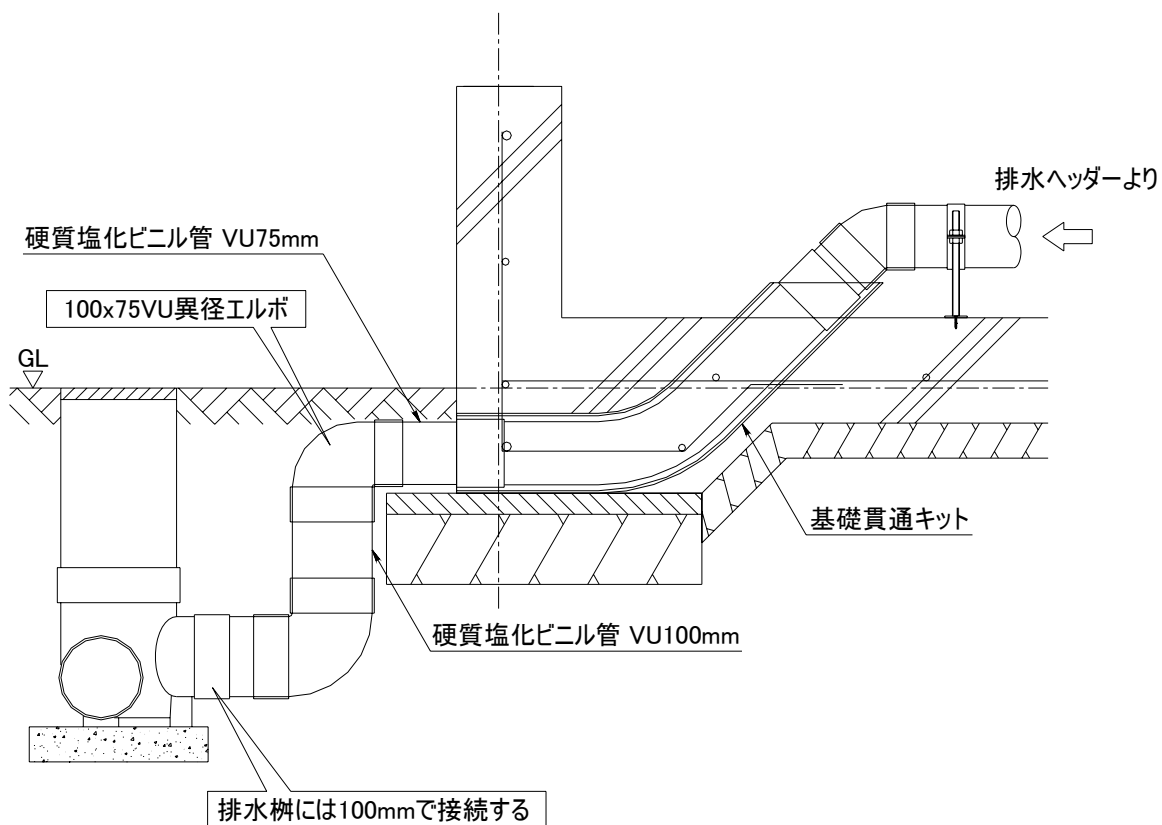
⑦排水ヘッダーを連結する場合の支持高さ
排水ヘッダーを連結させる場合、上流側の排水ヘッダーの支持高さを以下に示す。

排水ヘッダーの支持高さ(mm)

A	B	C
1000	140	190
2000	150	200
3000	160	210
4000	170	220
5000	180	230

排水ヘッダーを使用した場合、基礎貫通スリーブから屋外排水マスへの排水配管は異径エルボ100×75を用いて100mm口径で接続する。

屋外排水樹接続部の詳細



8. 排水ヘッダー維持管理手順



◆ 主配管路の清掃 (高圧洗浄機による例)

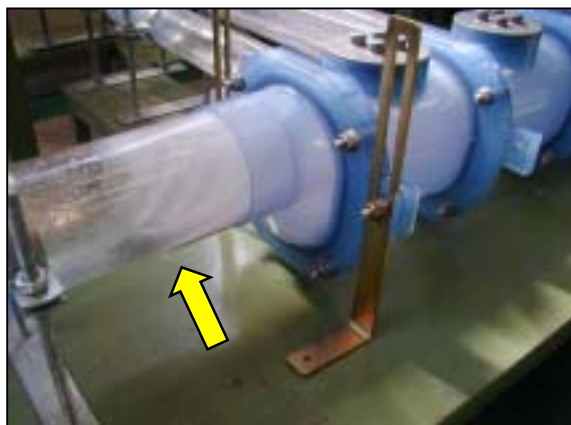
- (1) 屋外柵の点検口より維持管理器具を挿入する。



- (2) 屋内配管側へ向け、維持管理器具を順次管路に沿って挿入し、清掃する。



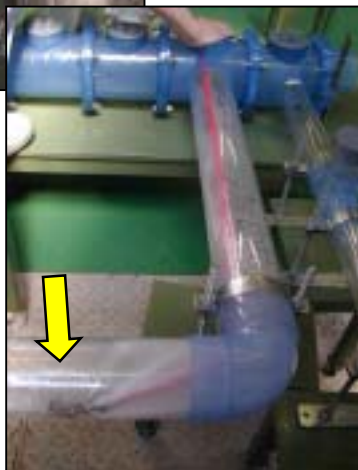
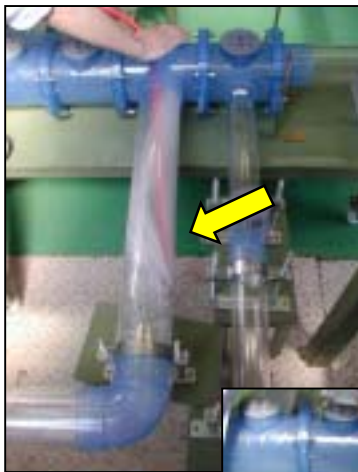
- (3) 屋内設置のビニヘッダー本体、並びに主配管路内を清掃する。





◆ 器具配管路の清掃
(高圧洗浄機による例)

- (1) 床下点検口より、床下設置のビニヘッダー
上部掃除口を開け、維持管理器具を挿入
する。



- (2) 各器具排水管路へ維持管理器具を挿入し、
清掃を行う。

9. 検査

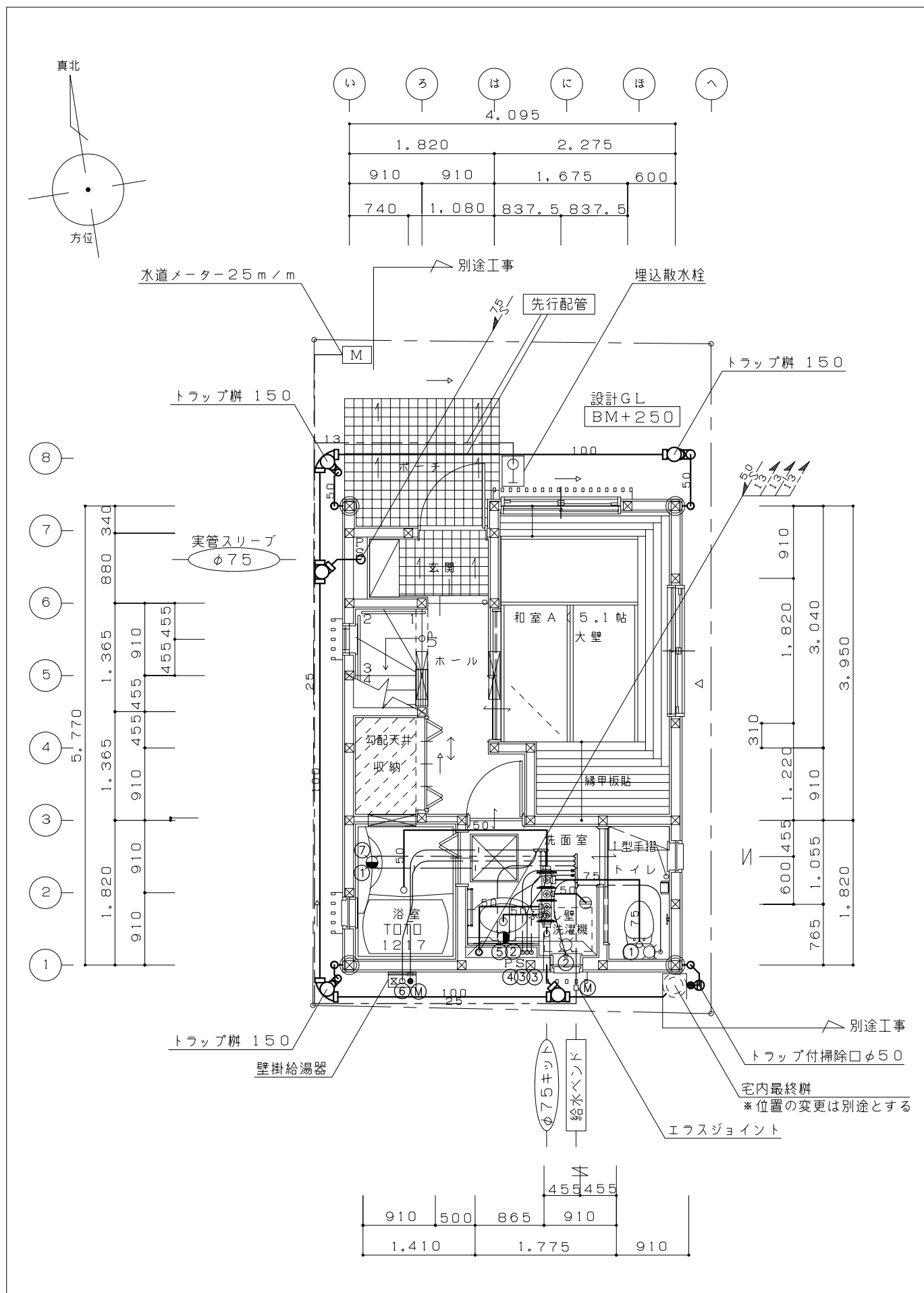
施工時の自主検査は、下記の要領にて実施すること。

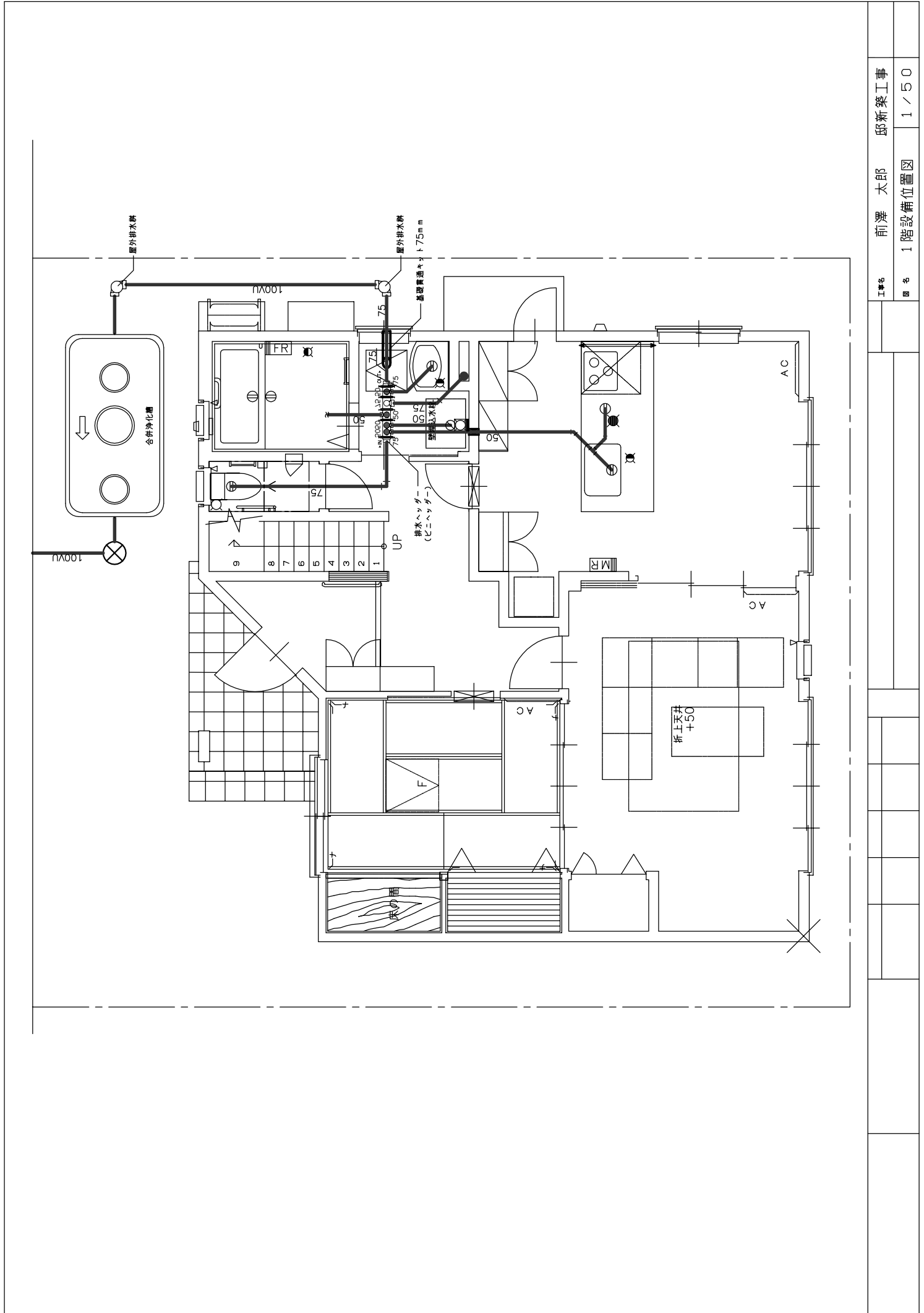
項 目	チェックポイント	検査方法	検査時期
排水ヘッダーと配管の接続	カラー接着剤の使用	目視	配管施工終了時
排水ヘッダーの支持固定	支持間隔と支持金具の固定状況	目視・触手	配管施工終了時
排水ヘッダー勾配確認	水準器の使用 (1/100勾配)	目視	配管施工完了時
排水確認	排水桝にて排水状況を確認	目視	衛生器具設置完了時

10. 排水ヘッダー取扱い上の注意

- 排水ヘッダーは分解しない。
- 落としたり強い衝撃を与えない。
- 直射日光の当たる炎天下や極寒の場所に放置しない。
- 床上にクギ 突起物が無いことを確認し、排水ヘッダーにキズがつかないようにする。
- 掃除口を開口した場合は、確実に締め込み排水試験を実施すること。

11. 給排水設備設計図例



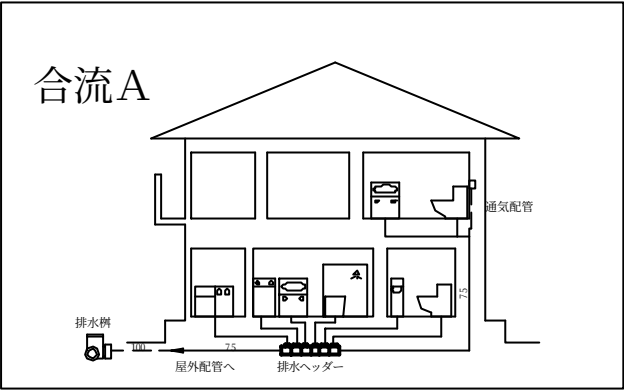


工務名	前澤 太郎	邸新築工事
図名	1階設備位置図	1 / 50

行政指導内容別排水ヘッダー計画

(1)合流

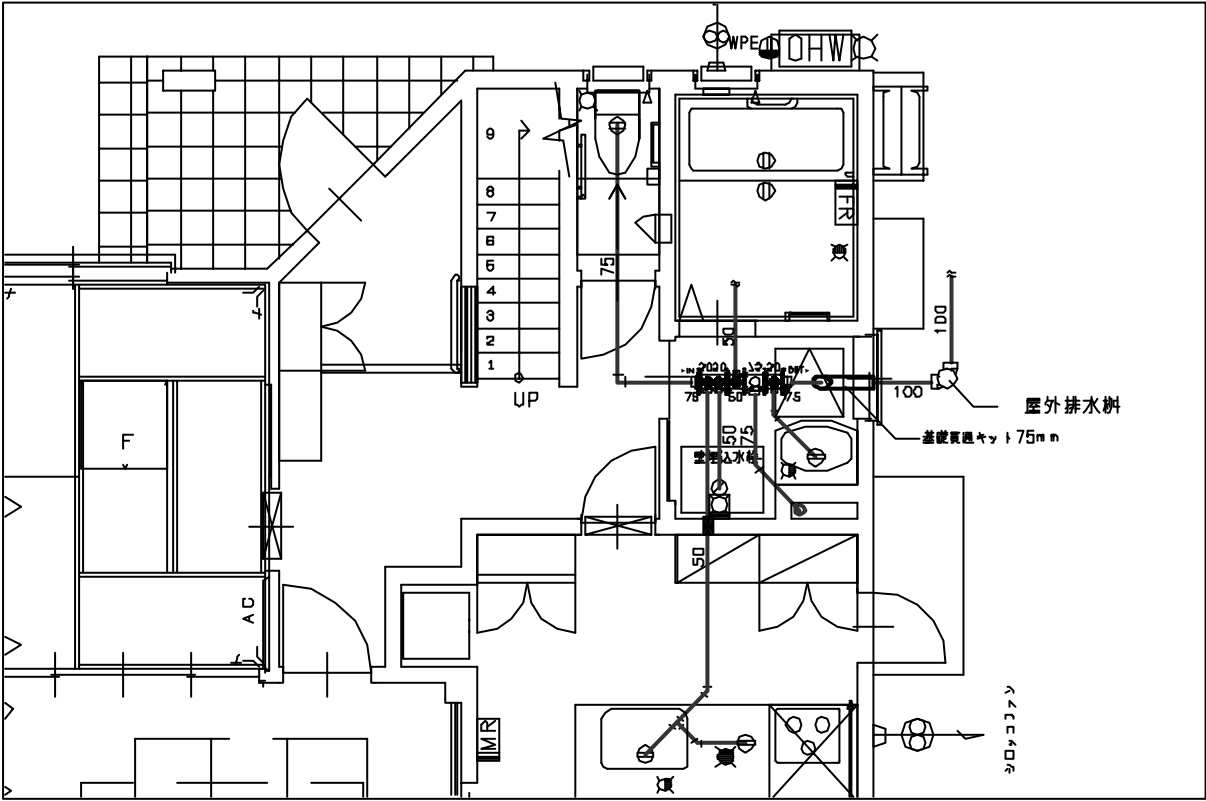
指導 排水ヘッダー以降の配管口径を100mmとする。



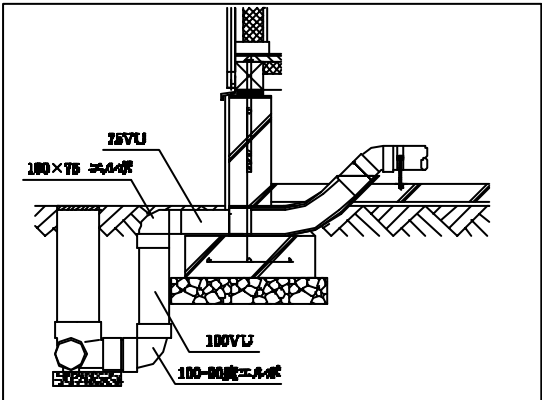
合流 汚水（トイレ）と雑排水は、排水ヘッダーで合流させ屋外排水桝へ接続させる。

排水ヘッダー以降の配管口径を100mmと指導された場合でも、100mmで基礎貫通した場合、屋外にて配管の土かぶりが確保出来ない事も有るが、品確法対応上基礎貫通部は、基礎貫通スリーブを使用する。

計画例 合流A

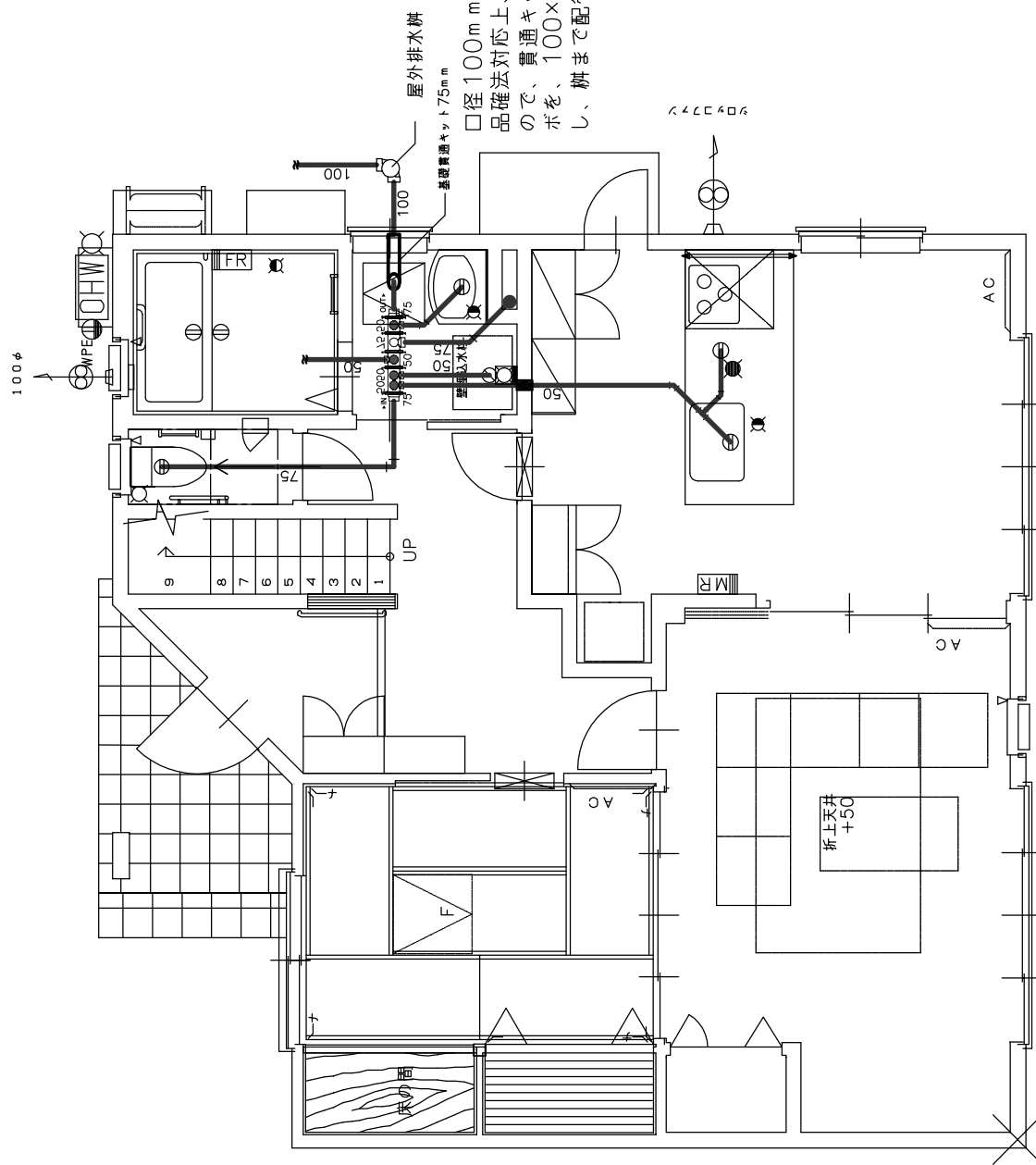
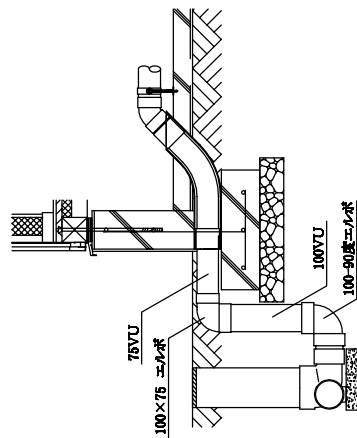


合流A:基礎貫通部詳細



屋外に出した後の第1エルボを100×75の異径エルボとし、以降の配管を100mmで桝まで配管する事。

基礎貫通部詳細



□径100mmを指導された場合でも、品確法対応上、貫通キットを使用するので、貫通キットを通過後、第1エルボを、100×75の異径エルボを使用し、桧まで配管する。

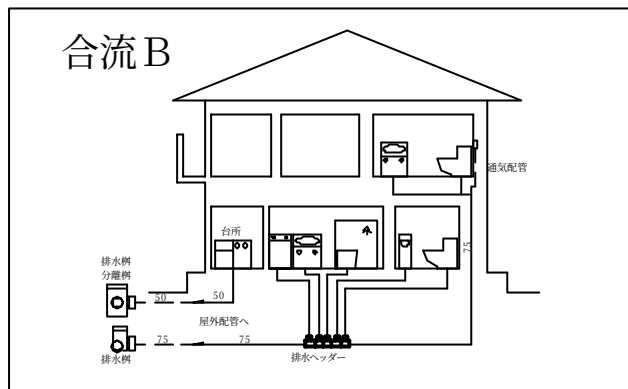
流出管100mmの指導

工事名	合流A	邸新築工事
図名	1階設備位置図	1/50

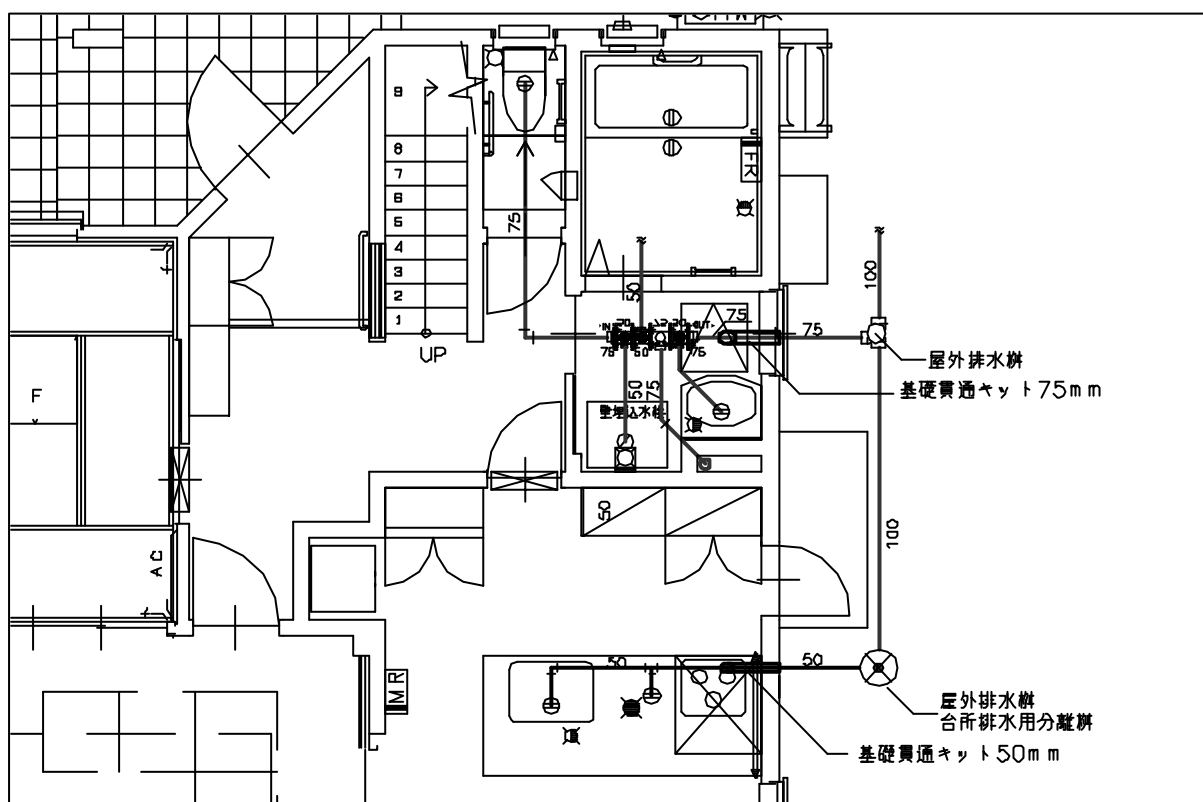
行政指導内容別排水ヘッダー計画

(1)合流

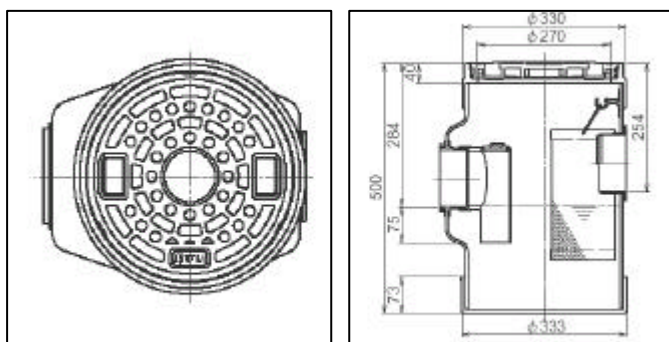
合流B 汚水（トイレ）と台所排水以外の雑排水は、排水ヘッダーで合流させ屋外排水桝へ接続させる。台所排水は単独で屋外分離桝又は、タメ桝に接続させる。

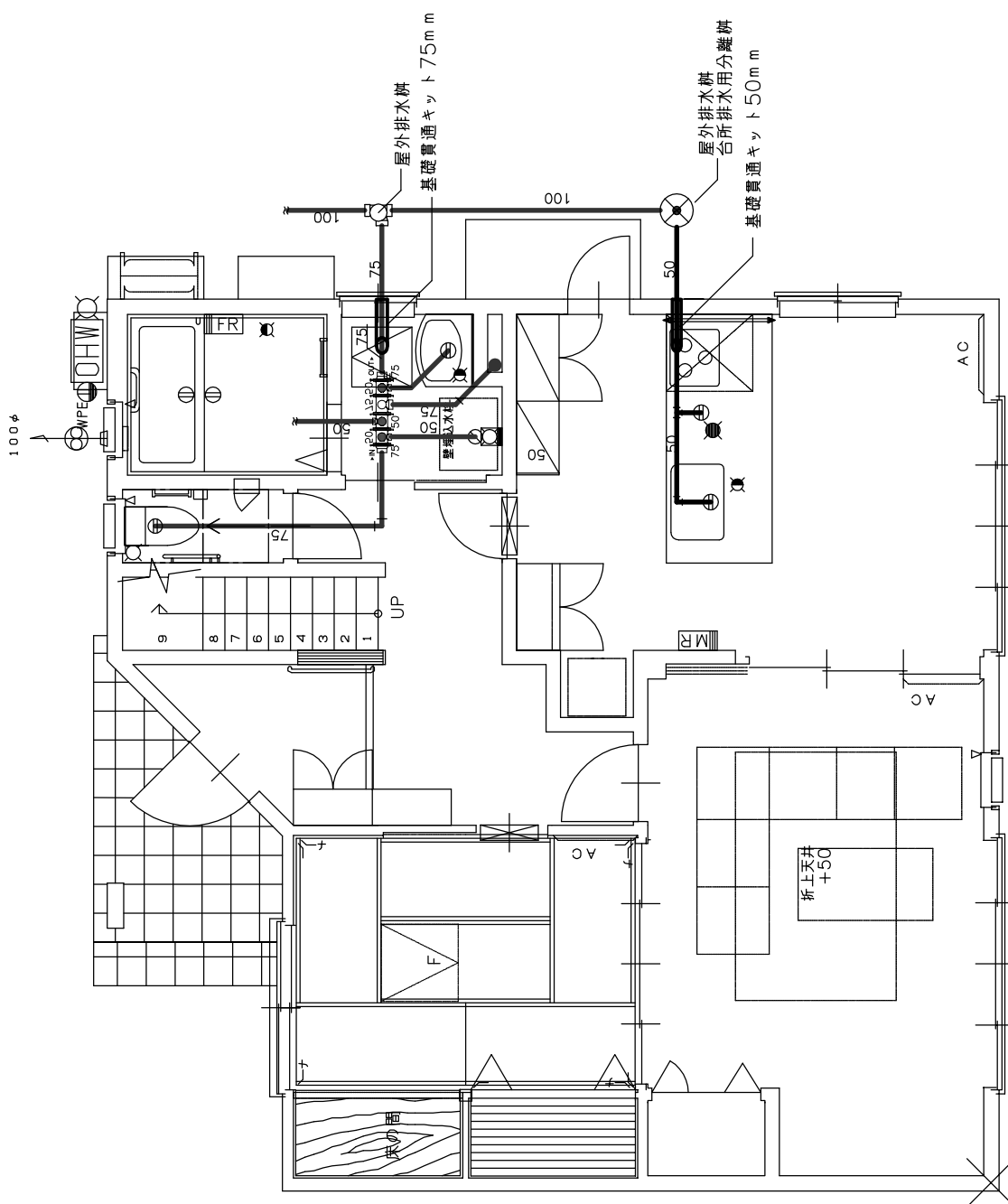


計画例 合流B



合流B:台所排水用の分離桝例 BM100V





キムチン分離の指導

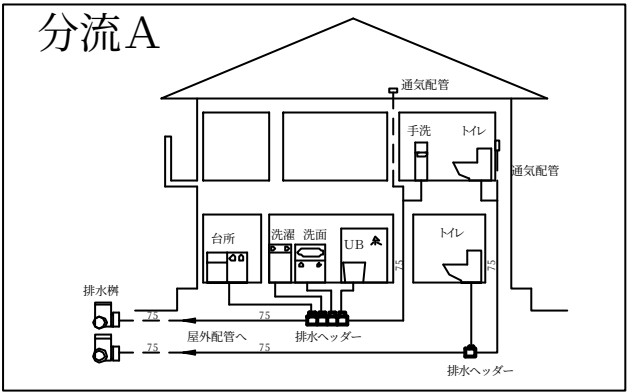
行政指導内容別排水ヘッダー計画

②) 分流

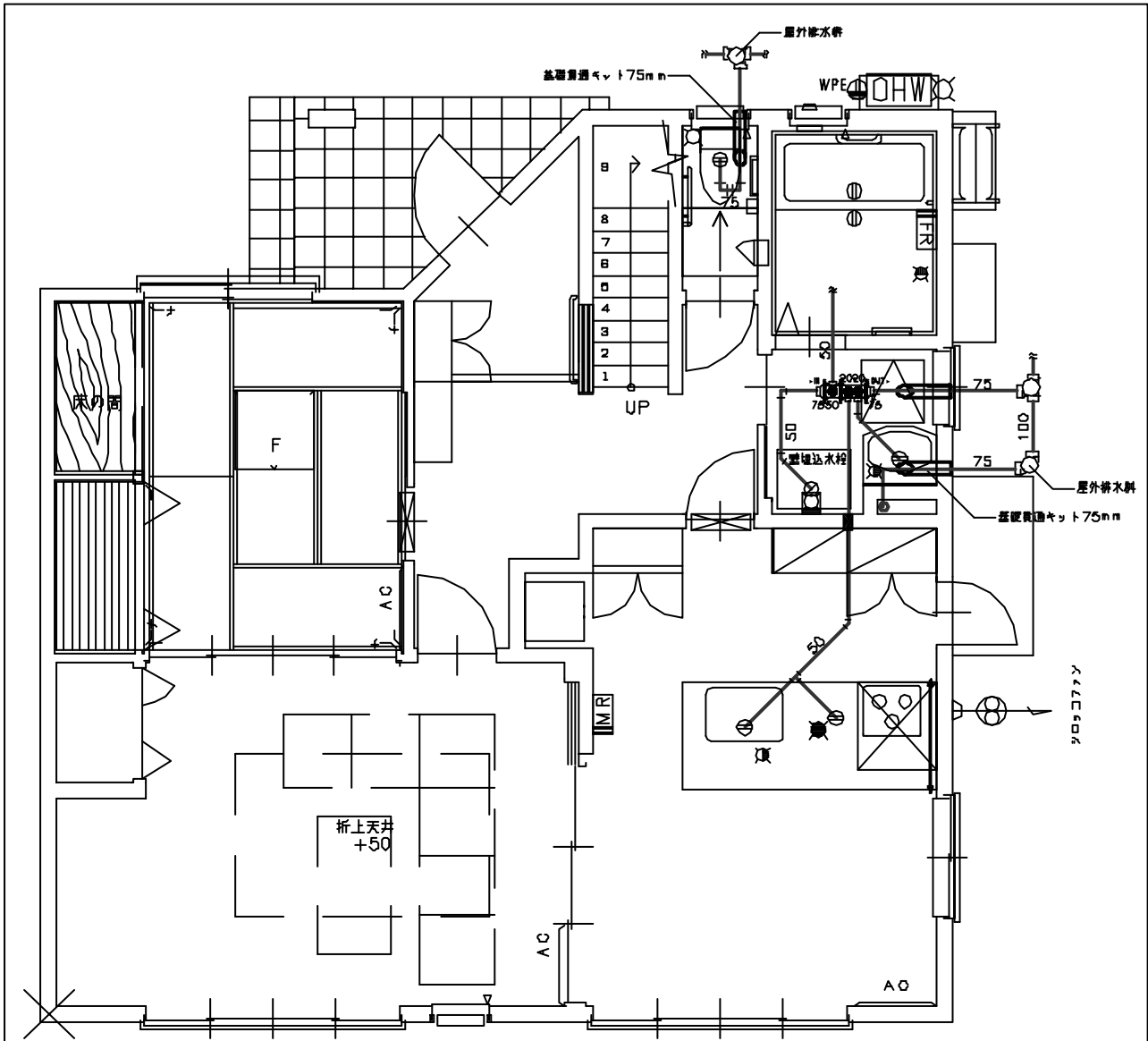
指導 汚水（トイレ）と雑排水（トイレ以外）を屋内合流してはいけない。

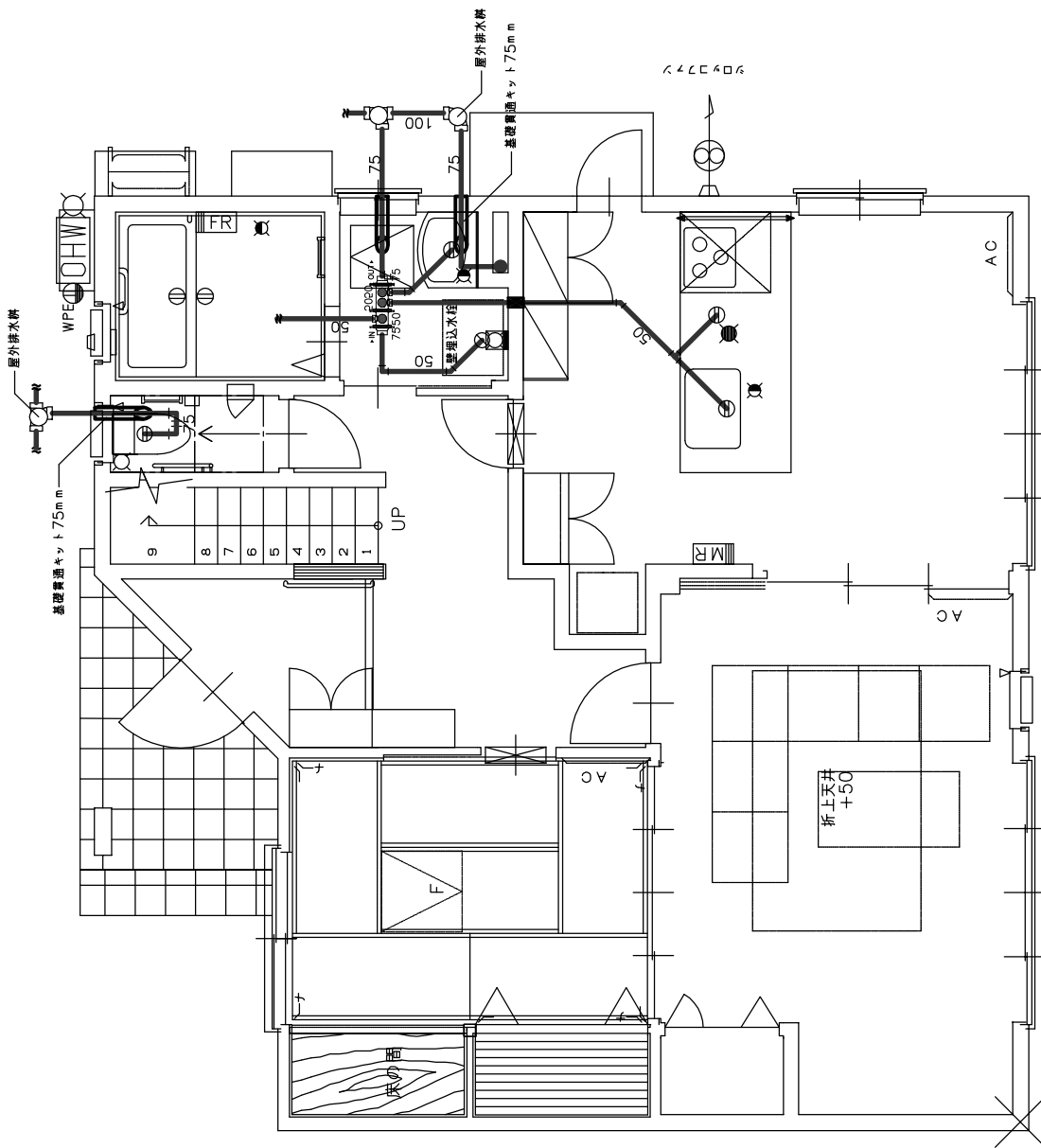
分流 A: 汚水（トイレ）は別配管とする。

雑排水は、屋内合流して屋外の桝に接続する。



計画例 分流 A





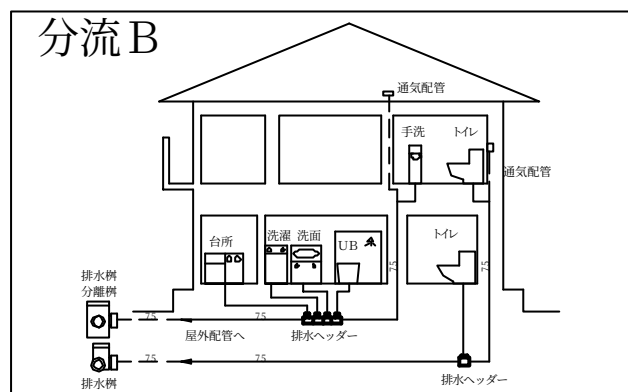
汚雑配管分離

工事名	分流A	邸新築工事
図名	1階設備位置図	1 / 50

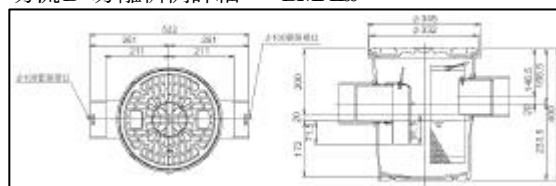
行政指導内容別排水ヘッダー計画

2) 分流

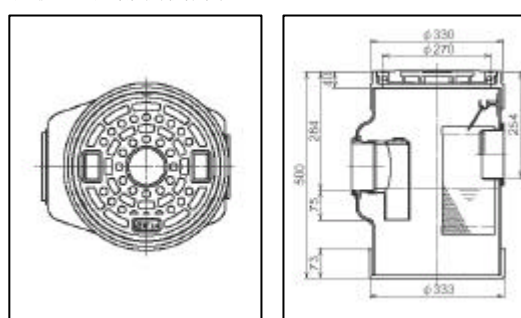
分流B 汚水（トイレ）は別配管とする。
雑排水は、屋外分離槽に接続する。



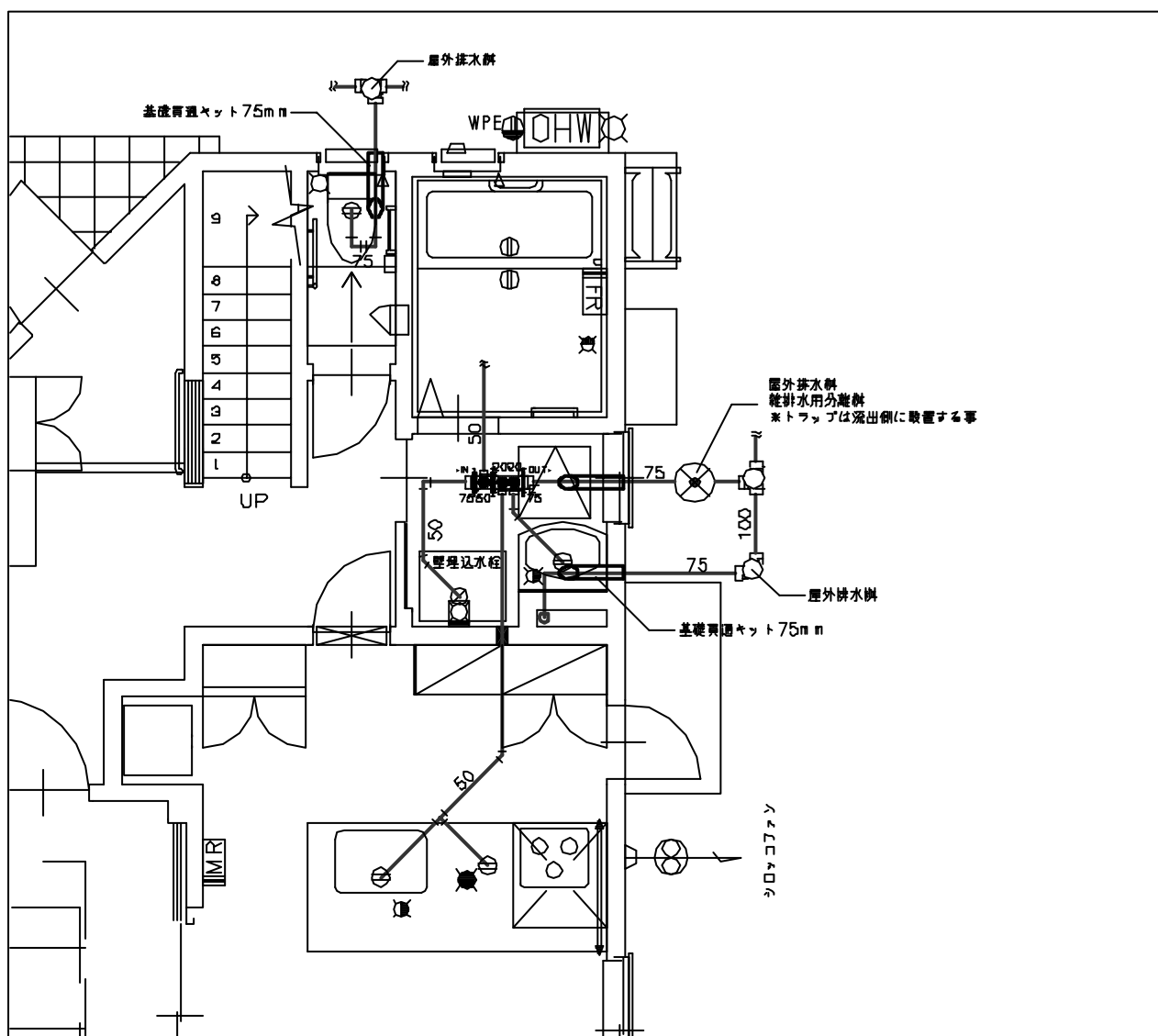
分枝B :分離樹例詳細 BMA100

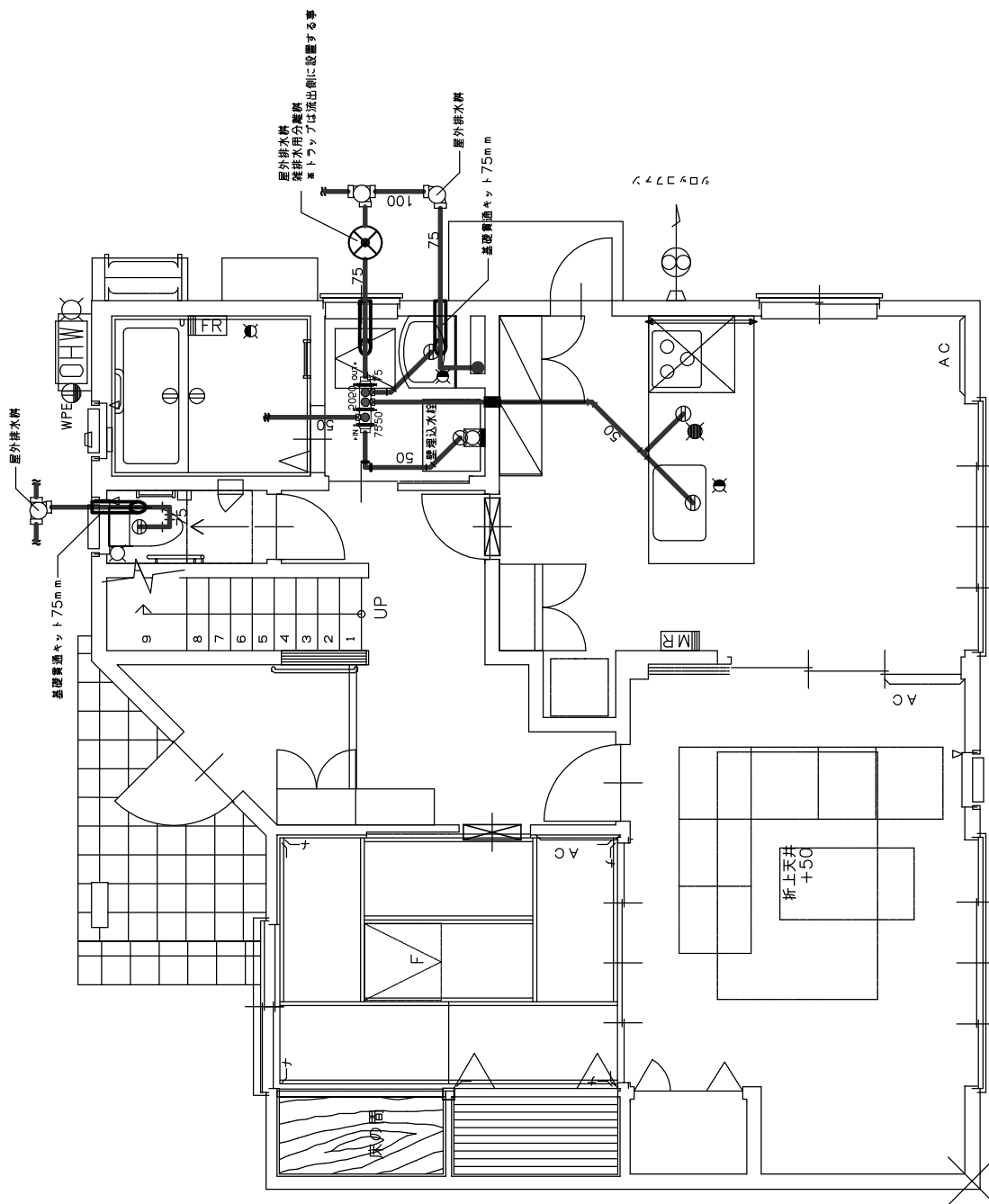


分 流 B : 分 離 枳 例 詳 細 BM100V



計画例 分流B





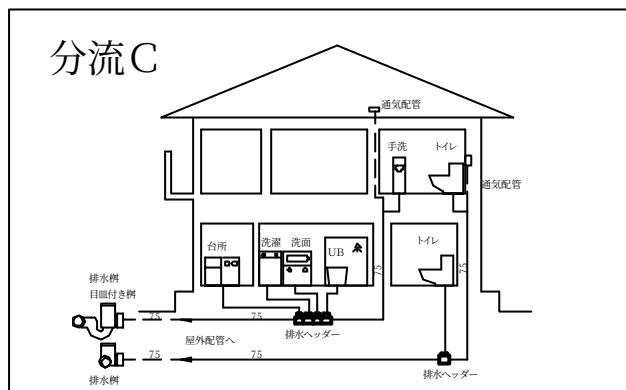
雑排水系に分離柵設置指導

行政指導内容別排水ヘッダー計画

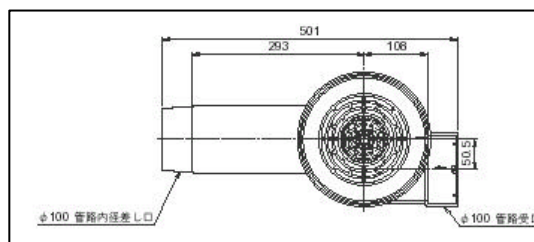
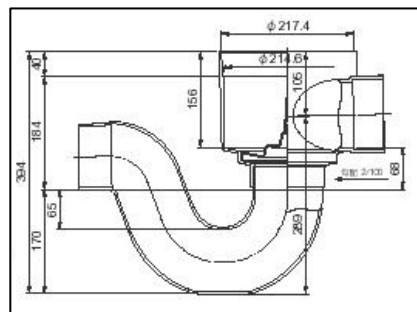
2) 分流

分流C:汚水（トイレ）は別配管とする。

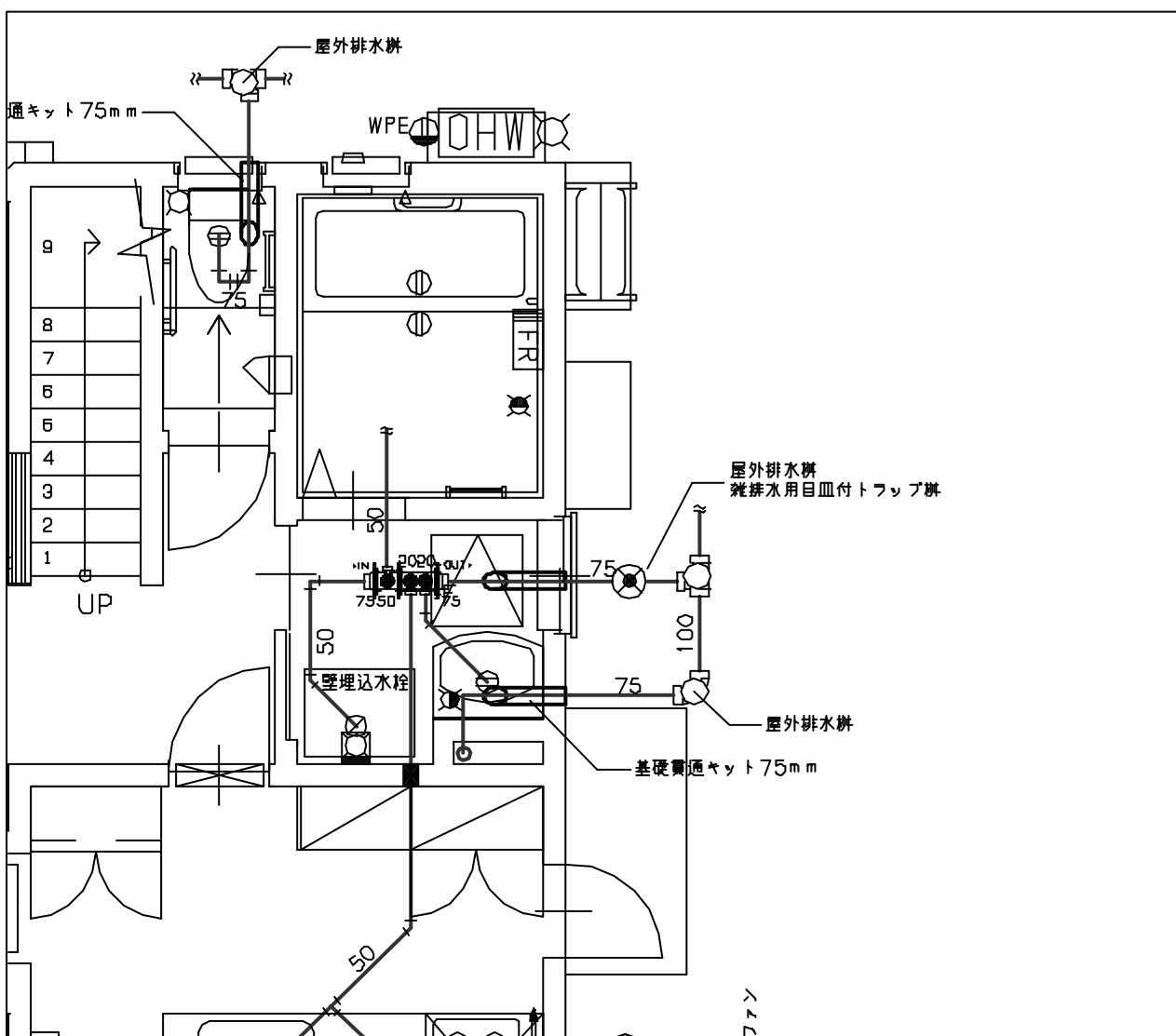
雑排水は、屋外の目皿付き桝に接続する。



分流B :目皿付き桝例詳細 MUK75-200



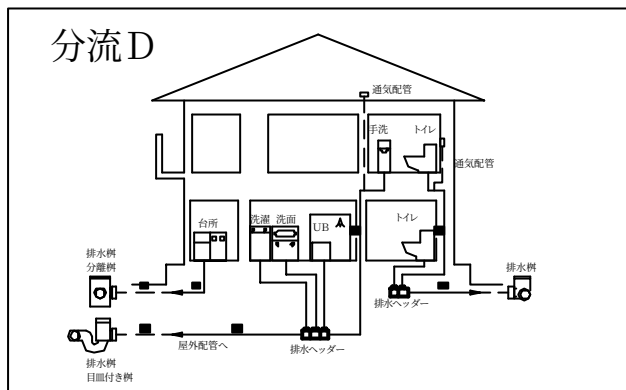
計画例 分流C



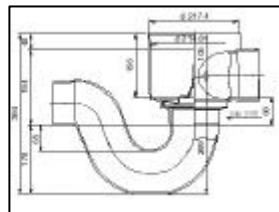
行政指導内容別排水ヘッダー計画

2) 分流

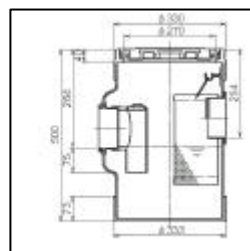
分流D 汚水（トイレ）は別配管とする。
 台所排水は、屋外の分離桝に接続し、
 台所以外の雑排水は、屋外の目皿付き桝に接続する。



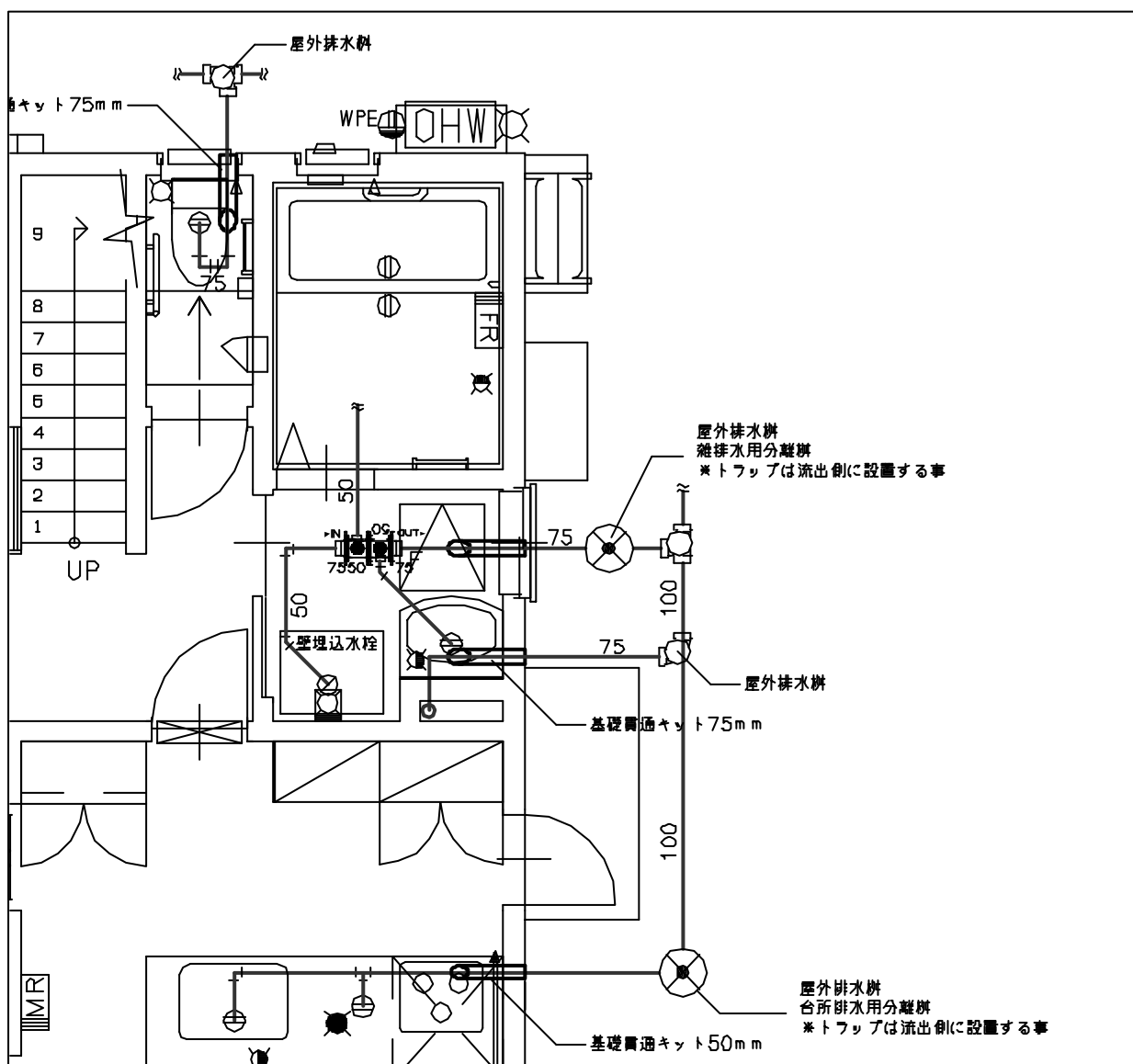
台所以外の雑排水：
 目皿付き桝例詳細 MUK75-200

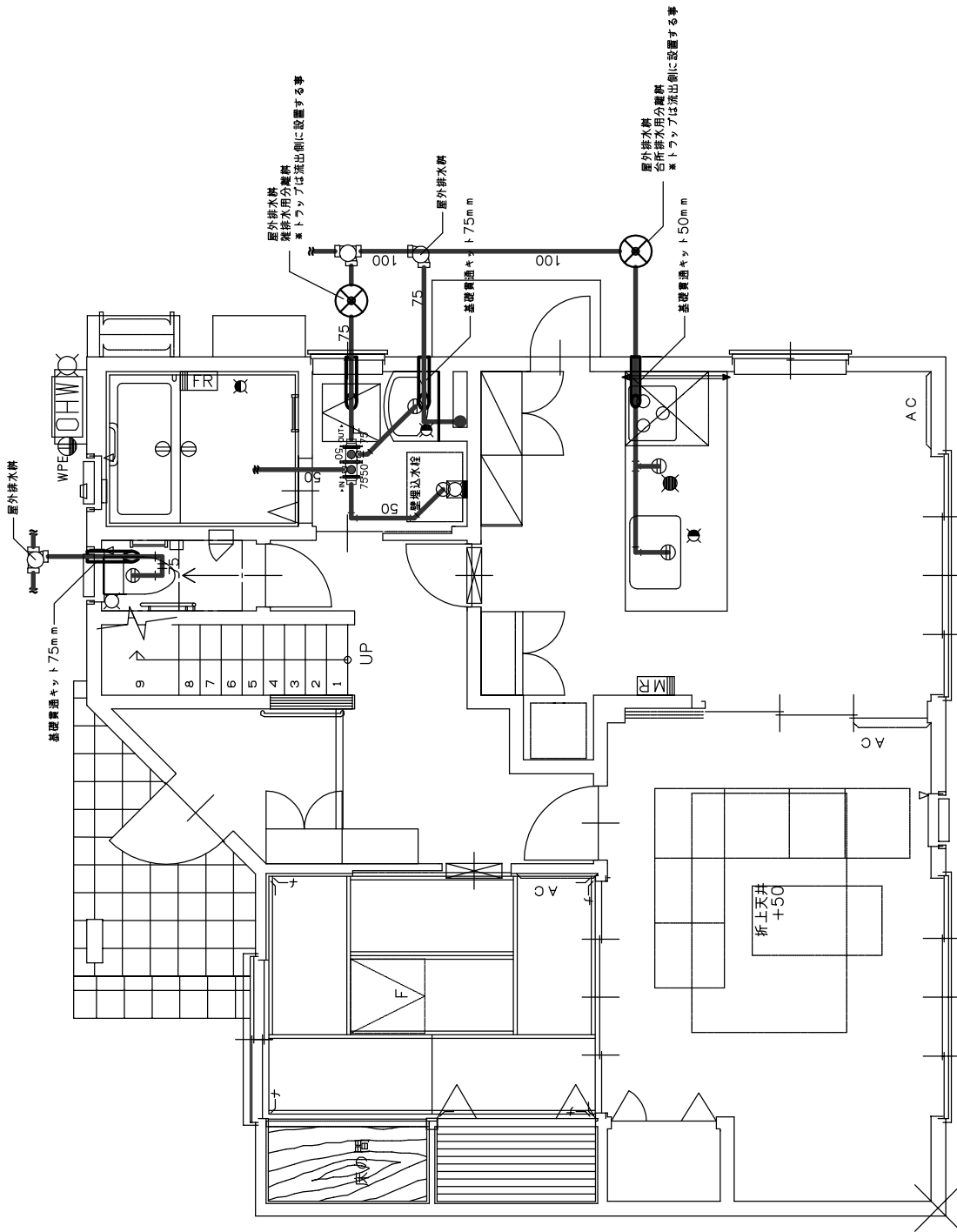


台所排水 分離桝例詳細 BM100V



計画例 分流D





汚雑配管分離

雑排水系に分離桝設置指導

台所排水の単独を指導

	工事名	分流D	邸新築工事
	図名	1階設備位置図	1 / 50

12. 排水ヘッダー水理実験例

(1) 目的

- ①排水ヘッダーの排水性能を確認する。
- ②排水時の逆流の有無を確認する。
- ③従来配管工法との排水性能を比較する。

(2) 実験方法

- ①排水器具を排水パターン別に排水する。

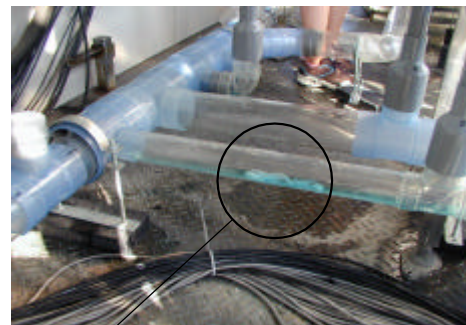
(3) 測定項目

- ①配管路に設置した測定トラップにて管路内の圧力（正圧・負圧）を測定する。
- ②枝管への逆流の有無を目視確認する。

(4) 実験条件

器具	仕様	排水流量
大便器（1階・2階）	節水型 8リットル	2.3 リットル／秒
手洗い	洗い流し	0.1 リットル／秒
洗面所	洗い流し	0.2 リットル／秒
洗濯機（42リットル）	溜め流し	0.4 リットル／秒
システムバス（240リットル）	溜め流し	0.9 リットル／秒
キッチン	洗い流し	0.2 リットル／秒
※擬似汚物・トイレトペーパー使用。洗濯洗剤混入。		

従来配管工法



トイレットペーパー逆流発生

(5) 実験結果

	排水器具パターン							圧 力	通 気	前 澤 化 成 品	判 定	従 来 配 管	備 考
	洋風大便器		手洗い	洗面所	洗濯機	ユニットバス	キッチン						
	1F 	2F 											
1階全器具排水	○	×	○	○	○	○	○	正 圧	無	+5mm	○	×	※基礎貫通排水部材キットは 75mmを使用
								負 圧	無	-24mm	○		
全器具排水	○	○	○	○	○	○	○	正 圧	有	+23mm	○	×	
								負 圧	有	-2mm	○		

判定基準: HASS 218-1999より、封水変動が±25mm以内

13. 排水ヘッダー施工例

